

老健 しずおか



静岡県老人保健施設協議会機関誌



撮影：清水港

ご挨拶



静岡県老人保健施設協議会

会長

平田 善章

このたびのマグニチュード9.0というこれまでに経験のない巨大な東北地方太平洋沖地震が発生し、東北地方を中心に広い範囲に甚大な被害を生じました。被災地域の皆様におかれましては、今後も心理的、物理的な負担が重くのしかかることは明らかです。被災地域の皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。

最近高齢者の強制栄養について、いろいろの場面で取り上げられることが多くなりました。ご本人のリビングウイルが、明確である場合は問題ありませんが、それがない場合にはご家族、周囲の人たちに苦渋の選択を迫ることになります。人間として尊厳の問題、経済的な問題、物理的負担の問題、等々様々な観点から決定しなければなりません。周囲の見る目も気にかかることです。

少なくとも、現在の社会、経済情勢のなかで、現状のまま又はそれ以上の介護・医療が持続可能かという疑問があります。やはり高齢化社会という重石の中、これまでのすべての場面で、延命重視という一見倫理的とみられる日本固有の文化が維持できるかという疑問です。終末医療のあり方について、疑問を持ちながら対応している医師の多いことが日本老年医学会に属す医師達の調査でも明らかになっています。

介護・医療に携わる人たちから発する言葉としては、忸怩たるものがあることは否めません。末期認知症の高齢者に強制栄養をする意味があるのか。老化現象と病気を同じ土俵で考えてよいのか。

本来強制栄養は、回復の可能性のある若年者、ある一部の高齢者のための治療法であつたはずです。

超高齢化が進むなか、老健施設で終末期を迎える人たちが、急激に増加しています。このような状況下で、我々としてもこの問題について真剣に取り組む必要があると思います。

ご挨拶



静岡県健康福祉部長寿政策局

介護指導課長

岩田 信夫

日ごろ、貴会及び貴会会員の皆様には、本県の高齢者福祉の推進に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

介護保険制度につきましては、スタートして11年が経過し、着実に定着してきましたが、我が国の世界に例を見ない高齢化の進展や、地域社会・家族制度の大きな変容の中で、要介護者の重度化、高齢者のみの世帯の増加など多くの課題を見据えて、今後の制度を見直していく必要があります。次期制度改正に向けて社会保障審議会介護保険部会が昨年11月にまとめた「介護保険制度の見直しに関する意見」においては、基本的な考え方として「医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく有機的かつ一体的に提供される『地域包括ケアシステム』の確立」が掲げられています。この中では、介護老人保健施設のさらなる活用等により、訪問・通所・短期入所・入所等のリハビリテーションを包括的に提供できる地域のリハビリ拠点の整備を推進することが提言されています。

介護老人保健施設は、今までも、入所者の処遇の向上のみならず、居宅、地域における高齢者の自立支援や介護予防のためのサービスの充実に努めてきましたが、今後の「地域包括ケアシステム」の構築に当たっても、重要な役割を担うものと期待しております。

さて、県では、事業者の増加や制度の高度化に的確に対応するため、各健康福祉センターで行っていた事業者指定及び指導監督業務を、平成22年度から本庁に集約しました。窓口が遠くなるなど、一部御不便をおかけしている面もあるかと思いますが、これまで以上に皆様との連携を密にして業務に取り組んでいきたいと考えていますので、御協力をお願いいたします。

最後になりますが、貴会及び貴会会員の皆様におかれましては、高齢者の自立した在宅生活を支える地域における拠点として、益々御活躍いただくようお願いいたします。

タカネ園

♪富士のお山が覗くのに 愛鷹山が邪魔をする お茶の畑のど真ん中 海も見えますタカネ園♪当施設は平成3年8月に開園し、今年で20周年になります。施設の周りは自然豊かで四季の移り変わりを感じることができます。

花の咲く季節には見事に成長した、しだれ桜枝垂れ梅が居室から見え大変喜ばれており、新緑の季節には、新茶の香りに包まれた心地よいそよ風が、利用者様をリハビリ(散歩)に誘い出します。

夏には納涼祭や開園記念日があり、和太鼓の音と共に暑さを吹き飛ばし、銀杏が光り輝く頃、園で収穫した柿・栗・芋で秋を感じます。吐く息が白くなる頃、柚子湯で温まります。当施設では、一年を通じ地域の皆様からクラブ活動の講師、踊り・音楽会・四季折々の催し等のボランティア活動に御協力頂いております。利用者様はとも喜んでおります。

これからも、ボランティア活動を通じ、地域の皆様と共に地域の高齢者の皆様やご家族の皆様が安心して生活できる様、誠意を持って対応させていただきます。♪誰でも年はとるものさ 老いを楽しみ生き生きと リハとクラブを頑張って 元気一杯タカネ園♪



リバフルケア

“今日の笑顔、明日につなぐ、お手伝い” 私達は利用されるお一人お一人の心身の機能やお気持、そして願いを大切にし、ご本人自らが少しずつでも回復を図り“自信の笑顔”を重ねて頂くのがスタッフ全員の喜びです。

利用者様投稿(第1回いきいき川柳大会)

♡ネット編み すずんでいるよ たのしいな

♡訓練で 手を支えられ ロング杖

♡松花堂 中ひろげ見る うれしさを

スタッフ投稿(日頃のケアを通して思う)

☆手を出さず“ハラハラ”隠し 見守る目

☆その笑顔 見たいがために 今日行く



大工・工作はおらんちに任せてーくん！ パズル作り ポンド・ペーパーで製作最終仕上げ



←誰かの一言で農園部結成 ネコの額にダイコン・白菜……浅漬けを部員お先に試食



利用者様参加の栄養給食会議→日頃のメニュー人気投票 三つ星はいくつ



←恒例・田貫湖バスハイキング 湖畔のまわりの散策で たくさんの秋を見つけました

ヒューマンライフ富士

当施設は、平成5年に新富士病院の併設型老健として開設し、現在は195床で運営しています。背後に雄大な富士山を仰ぎ、正面には駿河湾を見渡す静かな環境に位置しており、明るく広く機能的な空間になっております。又、「身体拘束ゼロ宣言」を行い、利用者様の人権を尊重したケアに努めています。

季節の行事やレクリエーションを通して、楽しく穏やかな入所生活を送って頂ける様に援助をしていきます。

老人保健施設の役割、機能の更なる向上に取り組み地域に必要とされる施設を目指します。



みくりや園

当園は東に箱根、西に富士山と自然に囲まれた場所にあります。ひとたび窓を開けると、近隣の商店街の賑やかさや小学校のグラウンドから子供たちの元気な声が聞こえ、ご利用者の顔も自然とほころびます。

入所定員67名と、施設としては小さな規模ではありますが、その分ご利用者同士、スタッフとの交流も深く、これからも当園らしい温かみのある介護に努め“私もいつかはこの施設に…”と思える環境を提供していきたいと思っています。

また、園内には習字・散髪・踊り・アニマルセラピー等のボランティアの方が見え、ご利用者も毎回楽しみにしています。習字では“書く”だけでなく、中には思いのまま“描く”方もいます。そのような時、改めて決められたことだけでなく、その人らしさを大切にして、これからも介護をさせていただきます。と思っています。

春のお花見



安 寧 の 郷

当施設は自然豊かな伊豆の山々に囲まれ、今年で開設17年になりました。歴史を考えればそろそろ県内施設の中堅どころとなりますが、刻々と変化する情勢の中、常に地域から求められる施設を目指し、職員一同精進しています。

今年は改めて自分達の施設名でもある『安寧』という言葉の持つ意味を考え、利用者さまの施設生活が「無事でやすらかである事」、そして「穏やかで安定している事」となる様、業務を見直し、サービスの提供をしたいと思っています。



富士ケアセンター

富士宮市南部、明星山の豊かな木々と雄大な富士山を眺め、四季の変化を感じられる場所に、富士ケアセンターがあります。

入所定員100名、通所定員60名の当施設は、併設の富士リハビリ病院（精神科）と供に、精神的支援・認知症等の対応、またその人に合ったリハビリを行い、残存能力を生かし、自立した生活を送れるよう力を入れています。

また、ボランティアの方も多く訪れ、地域とのふれあいを大切にしています。

利用者様の多様なニーズに応えられるよう、家族や地域との繋がりを大切にしながら、職員一同真摯な対応を続けていきます。



長泉ケアセンター 博寿園

長泉町は新幹線の三島駅近くに位置し、当長泉ケアセンター博寿園は、今年で開設以来17年目を迎えます。北に富士、南に駿河湾を見下ろし、温暖で快適な環境に包まれた施設です。ご利用者様とご家族皆様の笑顔の為に職員一丸となって快適なサービスを提供しております。

季節感を大切にしたたくさんの行事やボランティアの方々による楽しさあふれる施設生活をモットーとしております。更に施設の訪問リハビリテーション「すこやか」と通所リハビリで在宅での機能回復にも力を注いでおり、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所によるサポートも行っております。

また医療面では、隣接している同一グループの池田病院が年中無休体制で緊急対応しており、福祉と地域医療の両面から貢献し、皆様の施設生活が安心して過ごせますよう努力しております。



梅 名 の 里

介護老人保健施設「梅名の里」は、開設より18年目を迎えようとしております。これまでに、介護保険の施行を含め、さまざまな変化がありました。今回は、その変化に伴い独立した、リハビリ室の紹介をさせていただきます。

現在、リハビリ室は、常勤・非常勤合わせ8名の理学療法士と作業療法士が勤務しております。100名の入所者様、50名（介護予防含む）の通所者様へのリハビリの実施。そして、平成21年2月より訪問リハビリを開始しました。昨年度2名の新人を採用したことで、訪問もある程度軌道にのりつつあります。今後は、入所・通所はもちろん、更なる訪問リハの重視と介護保険におけるリハビリの相談窓口になればと思っております。

地域の中でどうあるべきかを考え、全職員が施設理念の下、元気に仕事をしています。



あすなろ

あすなろの基本理念は

- 利用者の尊厳を守る ●安全に配慮する
- 生活機能の維持改善に努める ●適切な医療を提供することを掲げています。

私たちは、この目標を達成できるようたゆまぬ努力することを誓い、スローガンとして、「私たち一人一人が、熱く優しい心を持ち、豊かな知識を身につけ、日々、技術を磨いて、多職種協働のサービスを提供する」ことを業務方針にしています。

私たち190名の職員（併設事業所を含め）全員が、この目標が達成できるよう日々、努力し、地域社会から信頼される施設になれるよう努めて参ります。



おおひら

当施設では多くの方から「広い」「明るい」「清潔」とのお言葉を頂き、衛生的な環境づくりも「選ばれる施設」としての重要な要素だと感じております。

駐車場から居室まで全面バリアフリーの広々とした利用者フロア、東西からの明るい陽射しと高い天井を有する食堂に大きな採光壁を採用した増築棟、日々清掃の行き届いた館内。そして利用される方々の明るい笑顔。私たちは「家庭復帰の足掛かりの場」として生活能力の向上を図り健やかな生活のお手伝いを致します。



ききょうの郷

ききょうの郷では、入所・ショートステイ・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション、併設する訪問介護など、多機能サービスを駆使して、多様なニーズにお応えする体制を整えております。

『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』を理念とし、介護予防から生涯を通じて、個々に合った生きがいを見出せるよう、リハビリにおいても、生活や人生の再生、回復に主眼をおいております。

どんなに年老いても、どんなに障害があっても、なお輝く人生がある。私たちはその可能性と未来を信じ、人生のリハビリに関わり続けます。



熱海ナーシングホーム翔寿園

日本有数の温泉保養地熱海市に位置し、天然温泉の源泉を有する当施設。

御利用いただく、お一人おひとりの「笑顔」と、ご家族の「安心」と「信頼」をモットーに、自立・家庭復帰へのサポートをリハビリテーションを中心に看護・介護・生活ケアを行い積極的に支援いたします。



のぞみ

みかん畑に囲まれた豊かな自然の中にある「のぞみ」は今年で12年目を迎えます。

保健・医療・福祉の連携のもとに真心と責任を持って、地域に開かれた施設を目指して職員一同、取り組んでいます。

入所定員100名（短期入所4名含む）通所リハビリ20名、併設で居宅介護支援事業所、地域包括支援センターがあります。また、関連施設として「伊豆のさと診療所」が隣接しており、主として透析治療を行い、当施設でも透析加療中の方を受け入れています。

季節の行事やレクリエーションを通して、楽しく穏やかな生活を過ごしていただけるように努め、ご利用者の「その人らしい生き方」を大切にする、寄り添う支援をしています。



ラ・サンテふよう

ラ・サンテとは『健康』を意味するフランス語です。利用者の方たちが健康でいられるよう、全ての職員が情熱をもってケアに取り組んでいます。

私たちの施設は、三島市北部の高台(芙蓉台)に位置し、北は富士山を、西は駿河湾を望む絶景の場所です。

全ての職種が連携をくみ、在宅復帰・自立支援のための短期・集中的リハビリテーションを展開しています。また「身体拘束ゼロ宣言」を行い、利用者様の人権を尊重したケアに努めています。パワーリハビリテーションによる活動性の向上や、管理栄養士による栄養相談、歯科衛生士による口腔ケアなど介護予防にも積極的に取り組んでいます。リハビリだけでなく、利用者の方たちの生活の彩りと日々のレクリエーションやクラブ活動も活発に行っています。



河津おもと苑

今年も“河津ざくら”の季節になりました。近年になく“大雪”のニュースが流れております。伊豆も馴れない雪に悩まされていますが、さくらのピンクと雪の白は絶妙なコントラストをかもしだしています。

当施設も開所から10年余となります。介護保険の始まりと共に歩んでまいりました。当初に比べると利用者様の年齢も高くなり、今では90歳以上の方がかなり多くなっています。80歳前後はまだまだ“若い”と思ってしまうかもしれません。かなりギリギリ迄“ひとり暮らし”老々介護が行われていたということでしょうか？

この50床の中で“出会いの場”が日々あります。親せき、友人、近所でも年齢を重ね、外との交流が途絶えがちであった方が、施設利用をキッカケに思いがけない“再会”をしている光景をしばしばみかけます。これも“地域”における施設の“在り様”ではないのかと感じています。



みゆきの苑

富士宮市のほぼ中央に位置し、入所定員109床（うち認知症専門棟36床）通所定員70名の、南富士病院併設の施設です。

当施設の理念は「明るく、家庭的な雰囲気の中で、笑顔と温もりのある療養生活が送れ、利用者の一日も早い家庭復帰をめざして地域に開かれた施設」として、地域の皆様やご家庭とのつながりを大切に考えた運営を行っています。

毎月開く“お誕生会”や四季折々のイベントには、地域のボランティアの方々にご出席いただき、楽しいひと時を過しております。



なぎさ園

当施設は、伊豆半島南端に位置する介護老人保健施設として、平成13年4月に開設し、今年で11年目を迎えます。

海と山に囲まれた静かで、暖かい気候の中、なぎさ園の理念である「手から手へ心から心へつなげる施設〜心地よい生活空間を〜」をモットーに、日々スタッフ一同、一丸となって取り組んでいます。

また、伊豆半島南部の唯一の公的病院である共立済病院が併設し、協力病院として、緊急時における支援体制も整っています。

安心と安全を考慮し、地域に根ざした施設として、笑顔あふれるサービスを提供しています。



しおさい

しおさいは、平成12年4月に開設し、今年で12年目を迎えます。健育会のビジョンであるクライアントの“心を豊かにする”、そして当施設のモットーである“もう一つの楽しい家”に重きを置いた施設環境の整備に職員一丸となって取り組んでいます。入所定員46名、短期入所定員4名、通所リハビリテーション定員30名、訪問リハビリテーションの施設です。又、急性期の病棟を備えた24時間体制の協力病院「西伊豆病院」が隣接しているため、緊急時における援護体制も整っています。今後も老健の理念、役割と機能を基に地域の皆様に『質の高い医療・介護サービス、そして、安心』を提供していきます。



グリーンス修善寺

グリーンス修善寺は、平成14年4月に開設し、新年度から10年目に入ります。

伊豆市役所の前に位置し、入所定員100名、通所リハビリ定員30名の施設であり、伊豆市で唯一の老健施設として地域の期待をになっています。

人道、博愛の赤十字精神のもと、ご利用者のお気持ちと人格を尊重したケアサービス、清潔で快適な生活空間、おいしい食事の提供に努めております。

特に伊豆赤十字病院に併設されているため医療面では恵まれています。

今後共地域の皆様に親しまれ、ご利用者にご満足いただけるサービスの提供ができる施設となるよう、職員一同、より一層の努力を重ねてまいりたいと考えております。



ひろみ

ひろみは霊峰富士の麓、東名富士インターから西に5分の場所にある、広見団地内の閑静な住宅街に位置しています。

月日の経つのは早いもので、平成14年に地域に根ざした診療所併設施設として開設し、今年は10周年目を迎えます。

“自分が利用したいと思う施設”のスローガンを目指し、入所定員90名、通所リハビリテーション定員40名の老健施設です。

リハ科、栄養科、看護介護科、居宅支援事業と協働で、地域の桜まつり、夏まつり、体育祭などを見学し、季節をご利用者と一緒に楽しんでいます。お弁当給食、寿し、おやつバイキングも皆様に大変好評です。

今後もご利用者に合わせた看護・介護サービスを提供



できます様に、職員一丸となって頑張っていくつもりです。

椎路の里

椎路の里は、今年で開設9目を迎えます。当施設のロビーには原生林をモチーフにした中庭と季節に合わせた飾り付けや利用者様の作品が、来所された皆様を明るく出迎えています。



さらには果樹園やふれあい広場には四季折々の季節の花が咲き、心豊かな生活を屋外活動で楽しむ事ができます。私達は施設での活動すべてがリハビリテーションと認識し、全職員が連携を図り一丸となって取り組んでおります。その中の一つとして、利用者様向けに様々なレクリエーションやクラブ活動が充実しています。茶道や俳句、日本舞踊クラブでは風流を楽しみ、書道や壁画、手芸クラブでは真剣な眼差しで作品の制作に励んでいます。それぞれ参加される利用者様の生き生きとした表情は椎路の里をより明るくしています。今後も皆様から喜ばれる施設を目指していきたいと思います。



利用者様の生き生きとした表情は椎路の里をより明るくしています。今後も皆様から喜ばれる施設を目指していきたいと思います。

サン静浦

介護老人保健施設サン静浦は平成14年の開設から地域の皆さまに愛される施設を目指し、利用者様の尊厳を守り日々のサービス提供に職員一同努力して参りました。

施設では8月の納涼祭をはじめ、春秋の外出行事やそのほか月毎の行事、また絵手紙教室や音楽クラブ、映画鑑賞会のクラブ活動も利用者様に楽しんでいただいております。



サン静浦では日々のサービス提供は勿論のこと健康管理・感染予防・安全に配慮します。

これからも利用者の皆さまとともに一日一日を大切にしたいと考え利用者様の立場に立って、より一層のサービス提供をして参りたいと思います。

みしゅくケアセンターわか葉

みしゅくケアセンターわか葉は、東名裾野病院の併設施設として、平成15年11月に開設しました。

雄大な富士の裾野に位置し、一般棟54床、認知棟46床、通所リハビリテーション定員40名の施設として、地域の皆様に支えられ、8年目を迎えました。

各専門スタッフの下、利用者様の持てる力、残された力、秘められた力を生かし、個別リハビリや生活リハビリを通じ、生活自立支援に努めております。毎月の季節行事は利用者様に喜ばれております。

家族や地域との結びつきを大切に、利用者様に合ったケアが提供できる様、目指しております。



夢の樹の郷

『夢の樹の郷』は東洋一の湧水量を誇る柿田川が近く、霊峰富士がすそのまで眺められ、景観や自然に恵まれた場所に位置しています。

この恵まれた環境の中、医師を中心に各職の専門性を生かしてご利用者様の生活援助をさせていただいております。また一年を通してご家族様や地域の皆様のご協力をいただきながら、納涼祭、クリスマス会、餅つきなどの催しを行っています。また暦ごとの行事食で四季を感じたり、職員と一緒におやつを作ることで昔を懐かしんだり、楽しい時間を満喫できるよう趣向を凝らしています。

職員一人ひとりがご利用者様から学んだ知恵や考え方を大切に、「今日のことは今日して差しあげる」ことで、『夢』を見ながら笑顔で生活ができる空間を創作できればと考えています。



みはらし

伊東市介護老人保健施設みはらしは、平成18年4月1日に伊東市が開設者となり、公益社団法人地域医療振興協会が指定管理者の指定を受け開設し5年が経ちました。



施設の利用定員は、一般入所85名、認知症40名(短期入所含む)通所リハビリテーション30名となっております。

内部空間においては、曲線廊下で家庭的な雰囲気演出できるようS字型の形状になっています。施設の理念「利用者の皆様の個性を尊重し、安全に配慮しつつ生活機能の維持・向上を支援し、在宅での自立を支援します」のとおり温泉を利用した個別浴、個別リハビリ、栄養マネジメントに重点を置いた利用者一人ひとりに合った介護計画を基に、常に安心に心がけ、ご利用される皆様が生き生きとした在宅生活を送れるように、地域の皆様のご協力のもと自立に向けて共に支援してまいります。

いかる野

いかる野は、富士山の麓、白糸の滝上に位置しており、今春6年目を迎えます。施設の展望テラスからは季節ごと変わる富士山を楽しむことができ晴天の日には遠方に伊豆半島も眺めることができます。

入所は定員100名、通所は定員40名で施設内に居宅介護支援事業所フジヤマがあり地域に根ざした信頼されるサービスを提供したいと日々努力しております。

施設スタッフは利用者様により楽しんで頂けるように日々工夫を凝らし、安心のある毎日を過ごして頂くために、お一人お一人の心身の機能とお気持ちや願いを大切に、自分の家族の一員が利用されているこんな気持ちで毎日、ケアに取り組んでおります。



(秋祭り 昔に想いを馳せて楽しみました)

いとうの杜

いとうの杜は、医療法人啓仁会が平成18年11月に開設し、今年で5年目を迎える、入所定員135名(内、認知症専門棟32名)、短期入所専門棟21名、通所リハビリテーション定員60名の施設です。JR伊東駅から徒歩2分の場所に位置し、青い海と緑の木々に囲まれた、生活の利便性と自然が融合した恵まれた環境にあり、その中でご利用者様お一人お一人に合わせたリハビリやケアに取り組んでおります。日々のレクリエーションの他、毎月行われる季節行事、地域の皆様をご招待しての夏祭り等のイベントも積極的に行っており、また、通所リハビリテーションでは温泉浴も取り入れております。

当法人の理念である「この街で、安心・生きがい・感動づくりを」をモットーに、施設サービスと在宅サービスを複合的に提供できる体制を目指し、前述のサービスの他に、居宅介護支援事業所や訪問介護ステーションも併設し、入所前から退所後のサポート迄させて頂いております。

これからも、地域の皆様に親しまれ、ご利用者様・ご家族様にご満足頂けるサービスを提供できる施設となるよう、職員一同、より一層の努力を重ねてまいります。



ふれあいの下田

当施設もはやいもので、平成18年4月に開設してから5年が経過しようとしています。その節目の年となる今年の4月1日より、30床を増床し、100床でのスタートをするべく着々と準備を行っているところです。(写真は増床部分で2月上旬にやっと足場の外れた頃です)

これからも、地域の医療・福祉の輪の中の一員として活躍し、貢献出来る施設として、又、ご利用者様やご家族様に喜んで頂ける楽しく明るい施設として、日々努力していきたいと思っております。



かぐや富士

美しく雄大な富士の山。その山に育まれた壮麗な景色が望める位置に「かぐや富士」はあります。

当施設は入所定員90名、通所リハビリテーション40名の開設3年目を迎える施設です。

趣向工夫をこらした季節ごとのイベント、レク・リハビリの充実。もちろんボランティアの方々の訪問など地域のご協力もあり、広く明るい開放感あふれる館内には優しい時間がいつも流れています。

そのような中で利用者との心と心の通った介護を提供できるよう、そして家庭的な雰囲気の中で利用者の自立の支援ができるよう、初心を忘れず職員一丸となり、笑顔いっぱいの活気ある、安心してご利用いただける施設をめざして努力をしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。



サンビューみしま

当施設は、平成13年5月、三島市の市街地より三島市郊外に新築移転した三島社会保険病院の併設施設として開設されました。

入所定員100名（短期入所療養介護含む）、通所リハビリテーションは定員40名です。居宅介護支援事業所と三島市から委託の地域包括支援センターを併設しています。

場所は箱根西麓高台に位置し、富士山・駿河湾が一望できるなど、環境には大変恵まれています。交通アクセスは、併設病院と共同の無料シャトルバス2台が三島駅と伊豆箱根鉄道の三島田町駅から運行しています。

毎年、納涼祭では三島中島八坂太鼓をご披露いただいております。敬老会では地元保育園の園児による慰問活動を実施するなど地域との交流も大切にしています。



〔中部地区〕

あかつきの園

介護保険制度が始まり10年が経ち、当施設は開設20年目を迎えます。利用者の状態は介護度が上がり、認知症の方の割合も増えて重度化しています。

当施設の特徴は作業療法士が一人一人に合ったリハビリを提供しています。計画に沿った個別リハビリはもちろんのこと、集団リハビリの時間にはなるべく大勢の方に参加してもらっています。機能訓練室は入所フロア内にあり、いつでも自由に出入りすることができ、作品を作ることが好きな方は毎日訪れて熱心に取り組まれています。朝から大勢集まり利用者の憩いの場になっています。フロアの廊下には毎月、利用者の方に作ってもらった季節の作品がたくさん飾られています。利用者、家族、職員とも毎回どんなものができるのかとても楽しみにしており、それが作る方の励みにもなっているようです。

入所が長期化していく中で、意欲的に生活を送れるよう利用者の楽しみ・役割を提供し、家族も訪れやすい、利用しやすい施設でありたいと思っております。



ケアセンター瀬名

ケアセンター瀬名は、平成元年に静岡瀬名病院の併設施設として、竜爪山を望み閑静で緑豊かな環境の中でスタートしました。静岡バイパス瀬名I.Cから車で10分の距離に位置し、交通アクセスも便利です。

ケアセンター瀬名では、入所者及び通所リハビリテーションの通所者向けに、様々なクラブ活動を行っています。書道、貼り絵、カラオケといった定番のクラブに加え、押し花、手芸、刺し子、料理、園芸といった作業リハビリにつながるクラブ活動を積極的に行っています。特に園芸活動に力を入れており、ボランティアの方々の協力を得ながら、中庭の花壇や屋上庭園への植栽活動をしています。屋外での作業ができない利用者には、フラワーアレンジメント作りやコケ玉、クリスマスリース作りなどの屋内作業を行っています。

これからも、充実した介護サービスの提供を目指し、併設の静岡瀬名病院、ケアハウスレインボー瀬名をはじめとした関連施設との連携をはかり、地域に根ざした施設運営をしていきます。



焼津ケアセンター

焼津市にあります焼津ケアセンターです。入所150床、通所リハビリテーション60名定員で、焼津市の中では1番歴史が古く、今年度17年目を迎えます。

リハビリ職員はかなり充実しており、理学療法士7名、作業療法士2名、言語聴覚士1名の体制で行っております。

県内ではめずらしいプールリハビリがあり利用者の方には、大変喜ばれております。

通所リハビリテーションは、月曜日から土曜日まで営業しております。焼津市、藤枝市はもちろん、島田市からもリハビリに通われているご利用者様もたくさんいらっしゃいます。

これからも、地域で1番選ばれる施設を目指し「清潔感と緊張感」「心と体やさしさに包まれて」をモットーに焼津を盛り上げます。



ケア・センターひまわり

ケア・センターひまわりは、地域に開かれた明るい雰囲気の中で、住み慣れた自宅へ復帰できるよう支援していきます。ご利用者様からおいしいと評判のお食事、日常生活の中で取り組むリハビリをはじめ、リハビリ専門スタッフによる機能訓練や活動、参加の促進等豊かな生活を送りながら、病院と在宅の中間施設としての役割を果たしています。

施設全体

- ・多床室中心のご利用しやすい価格体系
- ・市街地に位置した便利な立地

リハビリ

- ・専門スタッフによる機能訓練、生活リハビリなどを提供し、自立した生活を応援します。

お食事

- ・自前の厨房スタッフでご利用者様一人一人に合ったカロリーや食事形態等を検討し、楽しくおいしいお食事を安全に召し上がっていただけるよう、私たちスタッフが心を込めてお食事を作ります。



サンライズ大浜

開設16年目を迎え、「人にやさしい、地域密着型施設」として、入所・ショート、通所リハビリテーション等のサービスを中心に、本体である松生整形外科と共に、ご利用者様・ご家族様のニーズに合わせた、質の高いサービスの提供を目指して参ります。

食事、入浴、排泄、リハビリなど、基本サービスの向上はもとより、身体拘束廃止、褥瘡、感染症防止などにも、より積極的に取り組んで参ります。

また秋祭り等の行事や、水族館・お花見・大道芸見学など、屋外活動にも力を入れております。

お問い合わせや施設見学等のお申し込み・ご質問など、お気軽にお電話下さい。

▼毎年恒例の秋祭りです！



▲大道芸見物に行ってきました！

コミュニティケア高草

当施設は、焼津市の高草山の麓にあり梅や桜等たくさんの花木に囲まれた緑豊かな閑静な環境の中にあります。今年で開設15年を迎えました。毎月の行事やレクリエーションも四季折々の季節を感じながらの楽しい時間を過ごすことができます。入所定員数は84名で、通所リハビリテーションは増築により12月1日から利用者定員数が69名から115名へと変わりました。ご利用者の皆様に明るく広い空間でリハビリや入浴をしていただける環境が整備されました。

また、言語聴覚士による食事前の嚥下体操や口腔機能向上のリハビリを行い、おいしく安全なお食事を目指しております。また言語機能の回復及び維持向上を図ったリハビリにも力を入れ、楽しい生活を送り続けることが出来るように誠心誠意取り組んでおります。



こみに

平成9年に開設し、一般棟100床、認知症棟86床。通所リハビリテーション、居宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設しております。

「こみに」の基本理念はcommunity & communicationに全て表れており、私達は「こみに」を、大きな共同体と考えています。御家族や地域の皆様が参加できるイベントや様々なボランティアの方によるクラブ活動を計画するなど、利用者様にふれあいの機会を多く持っていただくよう、職員一同、日々工夫しております。

1F本館には一般の方も利用可能な喫茶店もございます。お近くまで来られた際は是非お立ち寄り下さい。



楽寿

当施設は、病状安定期にある方、認知症で家庭での介護が難しい方等を対象に、医師による健康管理、リハビリテーション、レクリエーション、食事、入浴等の看護・介護サービスなど、家庭での生活を可能にする為の各種サービスを提供します。特養、ケアハウス、地域包括支援センターをはじめとする楽寿の園高齢者総合福祉エリアの各施設や、居宅事業及び行政、医療機関等との密接な連携により、お年寄りの状態に沿った適切な介護等の調整を図ります。また、ご本人様やご家族様の相談に応じ、様々な情報を提供するとともに、退所後の万全なアフターケア体制を整えています。

また、ご利用者お一人おひとりを尊重し「その人らしい生活」が送れるよう、質の高い日々のケアに心がけております。穏やかな時の流れと温かく家庭的な雰囲気の中で、心豊かにすごしていただけるよう努力しております。



カリタス・メンテ

当施設は、平成9年5月に開設し、入所者50名、通所者20名と規模は小さな施設ではありますが、最期まで口から味わう楽しみや日々の生活を大事にした、穏やかな“看取り”を念頭にいった終末期ケアに取り組んで6年目を迎えました。肺炎の繰り返し、難治性心不全などの要介護者の方々への穏和的ケアの充実を図り、住み慣れた地域で、ご利用者様とご家族様のふれあいを第一に考え、穏やかで安心できる生活をしていただけるよう日々努めております。

また、通所リハビリテーションにおいては「その人らしさ、くつろぎ、共にあること、携わること、結びつき」というパーソン・センタード・ケアをサービスの原点としています。利用者様一人一人が、当施設を信頼し、より一層、心の通い合える、温かみのあるケアへと繋げていけるよう取り組んでいきたいと思っております。



ケアセンターゆうゆう

ケアセンターゆうゆうは、平成9年に焼津市の南部に位置する田尻に設立され、今年で15年目を迎える入所97床、通所リハビリテーション90名の施設です。

ゆうゆうはその名の通り『悠々』『湯々』『友々』『遊々』の意味が込められており、地域の皆様との結びつきを大切に、利用者が楽しく生活できる施設として心通うケアを目指しております。

入所施設では、看護・介護・リハビリを必要とする要介護者の方が、自立して一日も早く家庭復帰できることを目標に各職員が、日々がんばっております。

通所リハビリテーションでは、ご本人、ご家族様のニーズや状態を考えたりリハビリプログラムを計画的に実施し、自立支援のお手伝いをさせていただいております。



エコトープ

エコトープは、JR金谷駅より北2.5kmに位置し、大井川や緑豊かな山々に囲まれた自然豊かな環境にあります。入所定員は150人・通所リハは40人で、居宅介護支援事業所も併設しております。

四季折々に催す行事は、ご利用者と鬼や歌舞伎役者等に扮する職員とが一緒になり共に笑い歌い大いに楽しんでおります。とりわけ、夏まつりは、地域の太鼓や茶娘踊りを披露するなど、多数のご家族や地元の方々が来所され大いに盛り上がっております。

金谷地区では、唯一の老健であり、今後とも地域に根差した施設として、全員参加の介護・リハビリに全職員一丸となって頑張っております。



グリーンヒルズ藤枝

当施設は藤枝市の北部郊外にあり、瀬戸川の清流と緑豊かな自然に恵まれています。当施設は、聖稜リハビリテーション病院を母体とし、施設入所（短期入所療養介護を含む）100名、通所リハビリテーション75名の定員にてサービス提供しており、医学的管理の下、訓練士によるリハビリテーション、看護、介護その他必要な医療や個別計画による在宅復帰、在宅生活継続を目指して日常生活上の支援を行っております。

このほかに、訪問介護、訪問リハビリでは、地域での在宅生活の支援に重点を置き、利用者・家族の望むサービスを提供いたしております。居宅介護支援、地域包括支援センターでは、介護保険について等その他のご相談を積極的に受けたまわっております。

通所介護2事業所では、利用者に参加いただけるリハビリ、レクリエーション等を通して、利用者が「にこやか」に「個性豊かに」過ごすことができるよう常に創意工夫したサービス提供に努めております。



アリス草薙



当施設は平成11年11月11日に開設され、こととして12年目を迎えています。

この間、基本理念にも掲げられる「高齢者の人間性を尊重し、高齢者が健やかで尊厳ある人生を送ることが出来るよう支援する」の実現を目指し、母体が整形外科医院であることから、積極的にリハビリテーションを取り入れ、ご利用者の早期家庭復帰、社会復帰に力を注いできました。日独文化交流育英会から寄贈されたドイツ菩提樹が建物を取り囲む緑豊かな環境の中、施設内ではリハビリ等に励むご利用者、それをそれぞれの専門分野からサポートする職員の生き生きとした姿が見られます。

また「高齢者の人間性の尊重」の精神で、職員はご利用者の立場に立って「優しい言葉」「思いやりのある態度」を大切にできる人材を目指し、日々研さんに励んでいます。

場所はJR東海道本線・草薙駅から車で約10分のところ。ぜひお気軽に施設に足を運んでみてください。

アポロン

当施設は、JR東海道線島田駅より、北へ約1kmの住宅地にあります。理念にある

1. 自立した生活を支援します。
2. 明るい家庭的な雰囲気を大切にします。
3. 地域や家庭との結びつきを大切にします。
4. 家庭復帰をめざします。

を目標に、毎日の生活やレクリエーション・年間行事を通して笑顔の絶えない施設です。

また、在宅復帰を目指し、在宅復帰後の援助までトータルな支援を行っています。

平成23年5月には、近くに入所者20名のサテライト型介護老人保健施設を含む4つの事業所を開設予定です。職員一同これまでより一層の努力をし、地域の皆様に質の高いサービスを提供していきたいと考えています。



はるかぜ

「はるかぜ」も昨年は10周年を迎え新たな第一歩を踏み出しました。老健としての確固たる礎を築くため、介護サービスの質の見直しと向上に主眼をおいた取組みを始めました。一つには、接遇サービスの向上、二つにはリハビリに重点をおいた在宅復帰の取組み、三つには口腔ケアの取組みを始めました。まだまだ緒についたばかりで不十分ですが、今年度は2年目として一層のレベルアップを目指し職員一丸となって取組んでいきます。少しでも利用者さんと家族に満足していただける施設になっていきます。

地域一番の介護サービスの提供施設として地域貢献できるよう努力をしていきます。

介護、看護、リハビリ、栄養士等いろいろなスタッフが連携をし、利用者さんが「おだやかに、ぬくもりのある」（はるかぜの経営理念）生活を送れるための手助けができ、スタッフが明るく生き生きと働き、そしてまた介護サービスのレベルの向上を目指します。今までに築きあげてきた介護力に、よりよい介護力を積みあげ、老健としてこの地に長く貢献をしてまいります。



萩の里

今年で12年目を迎える当施設は、施設入所100床、通所リハビリテーション85名をはじめ、短期入所療養介護・訪問看護・居宅介護支援事業所の運営を行っております。

また、同法人で療養型病院・訪問介護・障害福祉サービス事業所も隣接しております。

地域に根ざした医療・介護・福祉の3本柱で総合的なサービス提供体制を目指しております。

充実したスタッフのもと、リハビリ・カラオケ・大浴場も利用者の皆様に喜ばれております。「利用者様第一」を全スタッフが合言葉に質の向上を図ってまいります。



葵の里

今年も「葵の里」の裏に広がる密柑山に、みかんがたわわに実をつけ、その変わらぬ彩りが利用者様の心を癒してくれています。

葵の里も開設して11年目の春を迎えました。手探り状態だった当初の多くの問題を何度も議論しあい、一つずつコツコツと地道に努力し片付けてきた賜物が現在のスタッフの質や技術のレベルアップにつながっております。これからもQOL向上のため試行錯誤を繰り返しながら、多彩な行事を通してやすらぎのある生活が過ごされ満足していただけるよう努めてまいります。

また、地域と家族とのつながりを大切にしながら地域に信頼され、愛される施設として医療・福祉サービスを提供し続けていきたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。



きよみの里

興津川の海沿いにある高台に位置し、清水の街並みや駿河湾を一望できる明るく、広々とした施設です。広大なリハビリ公園ではJA女性部や地元自治会の協力をいただきながら、季節の草花や農作物を育てており、地元の幼稚園児とともに収穫を楽しむことが出来る施設となっています。

サービス提供の内容は、入所・短期入所（ショートステイ）100床（うち認知症棟40床）、通所リハビリテーション（デイケア）定員55名、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所になります。



あ み

当施設は、静岡市街地から安倍街道を北へ車で約15分程の所に位置し、四季折々の味覚と香りを楽しめる自然豊かな所です。

毎年施設では、いろいろな行事を行っていますが、今回は、入所者の方及びデイケアを利用の皆さん、そして職員共々大変盛りあがる5月開催の「あみ大運動会」を紹介します。

「風船送り」では、速く次の方に送ろうとされる姿は、微笑ましく又「玉入れ」はデイケア、2階、3階の三つのグループに分れ真剣に籠に向かって投げ入れられる姿は、競争心旺盛で、投げる度にあちこちで歓声があがり、結果発表では第1位になると更なる歓声が上がりに盛り上がります。

「応援合戦」は各グループ共趣向をこらして、本番に向けて毎日練習、今回は、学ラン姿まで登場し熱が入りました。最後の「パン喰い競争」は、利用者様、職員そしてご家族の方も参加して行い、うまく食べられたり、失敗したり、いろいろなアクシデントがあり、大変盛り上がり楽しいひと時でした。

今後共職員全員で、ご利用者様そしてご家族の皆さんに更により良いサービスが提供できるよう一層研鑽を積んでまいります。



芙蓉の丘

開設11年目を迎える芙蓉の丘は、地域住民の方々に広く開かれ、利用者様が健やかに過ごすことができる施設を目指しています。

初夏には施設の周りに芙蓉の花が咲き、明るい光の差し込む中庭は、季節の花々や水辺の植物、魚や蜚を観ることができ、利用者様に憩いの空間を提供しています。夏祭りや節分など季節毎に行事を行い、その都度提供している行事にちなんだ食事は、利用者様に好評です。

リハビリ面においては、パワーリハビリや体操等筋力トレーニングだけでなく、計算・漢字ドリルなど能力トレーニングも始めました。

芙蓉の丘は利用者様が明るく楽しく生活できるよう、身体・精神面を職員一同サポートします。



さくら



さくらは今春9年目を迎えようとしています。一般棟90床、認知棟60床と島田市内最大規模の施設です。開設時に植えた桜の苗木も成長し毎年綺麗な花を咲かせて利用者様に春の訪れを感じさせてくれます。

当施設の理念「5H」には、「Heart to heart=心と心に向きあう介護」「at Home=家庭的であたたかな介護」「Healing=心がほっと安堵する介護」「Humanity=人間愛に基づく介護」「Healty=健康をサポートする介護」があります。その中で「Heart to heart」では、利用者様を通してご家族様との関わりも大切にしています。面会、密な連絡や施設における行事等、いろいろな場面で関わりを持つ事ができています。

これからも、ご家族様が面会しやすい、職員に相談しやすい今の環境を続けていく為に、職員一同努めていきます。

▼わんにゃんクラブ



▼初笑いの様子



コミュニティーケア吉田

入所・通所を問わず、初めて介護サービスを利用する時は誰でも不安なものです。コミュニティーケア吉田では、そんな不安を安心に変え、楽しく穏やかに過ごすことができるよう、職員一丸となって真摯に取り組んでいます。陶芸や園芸、音楽療法や料理教室、時にはパソコンを用いるなど様々な活動を行っております。

また、パワーリハビリを導入して介護予防に取り組んだり、学習療法にも積極的に取り組んでいます。

より多くの方々に利用していただき、より多くの方々が安心して生活できるよう、ご利用者や地域の方々とともに、地域に愛される施設づくりに誠心誠意取り組んでいます。



フォレスト 藤枝

当施設では「信頼・安心できる思いやりのある医療・福祉環境づくり」を理念に掲げ、手厚く細やかな介護、充実したリハビリテーションを目標としています。リハビリについては、利用者様の心身機能の維持回復はもちろんのこと、一人一人に適したプログラムを組むなど個別重視の訓練を提供しています。

その他、季節に合った様々な行事を行っています、8月には駿府夏祭りを開催し、地域ボランティアの皆様のご協力のもと、大道芸、和太鼓、学生吹奏楽などの催し、夜店を多数並べて盛大に行っています。皆様是非お越し下さい。



マ イ ン ド

平成15年11月に開設しました。入所者150名（一般棟102名、認知症専門棟48名）通所リハビリ40名の施設です。8年目を迎え、利用者さんの生活の向上を考えさまざまなレクリエーションを企画しています。

藤枝の恵まれた自然を楽しんでいただこうと、春はお花見、夏はホテル観賞、秋は紅葉狩り等に出掛けました。

施設内では、お茶会、生花展、毎日喫茶コーナーで提供しているコーヒーは、昼食後の定番となりました。

法人の理念である「心の通い合う温かい介護」をモットーに職員一同頑張っています。



ケアセンター 池田の街

「ケアセンター池田の街」は静岡市の中央に位置する東静岡地区に平成17年4月に開設した入所定員110名・通所リハビリテーション定員40名の施設です。

四季を通じ様々な花が咲く屋上庭園や窓から見える富士山や日本平の眺望など、交通至便な街中にありながらも、喧騒を忘れ穏やかに癒される“都市型”老健施設です。

ご利用者様には、笑顔のたえない明るい雰囲気の中で、活力と安心を感じられる日々を過ごして頂くため、生活状況に沿ったリハビリを重視し、季節の行事や各種のイベントなど楽しみながら心身機能の維持向上を図って頂ける様配慮しております。

今後も「やさしさで支えたい、守りたい」の理念のもと、常にご利用者様の視点に立った温もりあるケアの提供を目指し、一層の努力を重ねて行きたいと考えております。



か り ん

介護老人保健施設かりんは、静岡市駿河区宇津ノ谷峠の山々に囲まれた緑豊かな環境の中にあり、入所100床、通所リハビリテーション40名をはじめ、ショートステイ・居宅介護支援事業所の各サービスを提供しています。

かりんでは、利用者様に楽しく生活をしていただけるよう、職員の手作りによるイベントを数多く催しています。クリスマス会では、毎回恒例の職員による“かりん太鼓”に加えて、今回は新たに“ハンドベル演奏”に取り組みしました。ハンドベルの素敵な音色に、利用者様はうっとり聞きほれ、「きれいな音ね」「心が洗われる」などの声が聞かれ、楽しいひとときを過ごされました。これからも練習を重ね、さらに喜んでいただける演奏を目指したいと思います。

このように、私達は利用者様に喜ばれ満足していただけるよう、介護サービスの質の向上はもとより、日々の生活全般においても選ばれる施設を目指して努力をしていきたいと思っています。



ユニケア岡部

当施設は平成15年9月に開設され、今年で8年目を迎えます。原点は往診医療から始まり地域の患者さんの声から、ユニケア岡部は設立されました。理念である「人権」「安心」「生きる喜び」を実現するために各部署・各部門が連携し取り組んでいる地域密着を特徴とした施設です。

今、生きている事が楽しいと思っただけのよう、利用者様ひとりひとりに合ったケアを心掛けています。利用者様と一緒にを行うユニット調理では、普段では見られない笑顔にあふれ、心地よい雰囲気に包まれます。自分たちで作って食べる事で、より一層美味しさも食べる喜びも増していく様です。誰でも自分の家が一番居心地の良いものです。少しでも“自分の家”に近づける様に、ご家族様の方にも協力していただきながら、わがままの言える施設を目指しています。



〔西部地区〕

西山ウエルケア

西山ウエルケアは昨年6月より通所リハビリテーション部門をさらにリハビリ特化させました。利用時間は午前・午後2部制の短時間型通所リハビリテーションです。

理学療法士、作業療法士が利用者の状態に合わせてトレーニングマシンやその他の機材を使用した個別リハビリを提供しております。

入所者にはレクリエーション専門スタッフにより個別のかかわりも重視する中で、入所者それぞれが自分に合わせて自主的に活動ができるよう体制を整えております。



鶴舞乃城

～その人らしい生活にお応えします～

鶴舞乃城は、清水インターから北へ車で約5分程の場所にある小高い山の中腹に平成19年4月1日に開設しました。

現在は、入所100名（短期入所療養介護を含む）通所リハビリテーション70名、居宅介護支援事業所を運営しております。

その方らしい「生活習慣」や「こだわり」を大切に、お一人おひとりの状態や目標に合わせたケアを行います。年齢を重ねれば誰にでも起こりうる心や身体の機能障害を個性ととらえ、ご本人様はもちろんご家族の皆様にも安心していただける介護を目指しています。



エスコートタウン静清

医療法人アール・アンド・オーグループのエスコートタウン静清では、充実したリハビリテーション体制で、在宅復帰を目指し、リハビリステイ、個別リハビリ、アクティビティに取り組んでいます。

また、季節を感じるイベントも積極的に行っており、夏は軍人社の花火大会に合わせての納涼祭。出店でのお好きなものを買って、召し上がっていただけます。夏の一夜をご家族とともに楽しんでいただけます。また、クリスマスにはご自身でケーキのデコレーションを楽しんだり、サンタクロースによるプレゼントもあります。年末には経験豊かなご利用者さまの指導のもと餅つきを行いました。

ご利用者さまの豊かな経験をスタッフも学ばせていただきながら、様々なことに取り組んでおります。

また、充実したリハビリ体制は、通所リハビリ、訪問リハビリにもつながり、継続したリハビリテーションをご提供しております。



みっかび東介護老人保健施設

浜名湖を望み、山々に囲まれた温暖な気候に恵まれた三ヶ日の自然の環境の中、安心して暮らせる療養環境を、私たち職員一同、真心込めてご提供させていただきます。

当施設のマottoは利用者様に快適で気持ち良く暮らすことのできる環境の提供であり、その為に「明るく・清潔に」を合言葉とし、日々サービスの提供をさせて頂いています。また、在宅生活をサポートする通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所、診療所も併設し、地域福祉ニーズに幅広く対応できる施設であるよう、常に努力しています。

今後も福祉の拠点になるよう頑張っていきます。



三方原ベテルホーム

法人理念の「隣人愛」に則って、地域社会の中の一施設として保健・医療・福祉の総合性を大切にするとともに、その中で個性ある役割を担っていくことが当施設の理念です。

利用者の「生きよう」という意欲を育みそれぞれの持てる能力を活かした自立を目指しています。併設病院との連携により緊急時の医療的支援や専門性の高いリハビリテーションの実施など利用者一人ひとりに応じた質の高い医療・介護サービスの提供が可能です。特に維持期のリハビリに力を入れ、生活に即したりハビリを推進することで、長時間の機能維持・改善を目指して地域における在宅生活を支援していきます。



なかよし

笑顔がいっぱいの「なかよし」です。

当施設は、JR豊田町駅より北へ車で5分のところにあります。併設している豊田えいせい病院と連携しており、病状、病態の変化などにも、適切で迅速な対応が可能となっております。また、リハビリを中心に在宅復帰を目指しています。

毎月行っている四季折々の行事を通して、利用者様の笑顔を大切に、生活への活力となっただけよう努めております。

今後も職員一同、心のこもった介護で快適な生活を送っていただけるよう質の高いサービスを提供するための努力を重ねていきます。



都ケアセンター

都ケアセンターは浜松市北区都田町の緑豊かな自然を背景にしています。定員は入所が151名、通所リハビリが40名です。併設施設として政本病院（療養病床）があり、互いに連携して「そのひとに最も適した介護」の実現を目指しております。

当施設は理学療法士、作業療法士のスタッフのもと、パワーリハビリ機器も導入し、より充実したリハビリテーションを提供できるように努力しております。

開設19年目を迎え、今後も職員一同、利用者様本位の介護サービスを心掛け、実践していきたいと思ひます。



ハイマート有玉

ハイマート有玉の栄養課では、ドイツ語で「ふるさと」を意味する施設名由来のもと、ご利用者様にとって食べておいしいことを優先とした食事づくりで、食事から季節を感じてもらえる家庭料理の味を心がけています。夏には冬瓜を使った味噌汁や秋には茄子料理、節分には鰯や大豆を使った献立、お彼岸には3色おはぎなど旬の食材や行事食を各季節ごとに取り入れています。また調理実習では、調理する楽しみ、食べる楽しみを味わいそれを生きがいとして感じていただけるよう取り組んでいます。月1回のバイキングは主食・副食・デザートと数種類のメニューそして普段の献立にあまり取り入れることの少ないメニューも提供しています。今後も食べる楽しさそして喜びを感じ・味わえる食事づくりを心がけていきたいと思ひます。



エーデルワイス

当施設は、平成19年4月より政令指定都市となった浜松市の北部にあります。国道152号線沿いで、近くに大型ショッピングセンターが2つもあり、浜松市中心街より車で約30分たらずの交通至便な場所にありながら緑に囲まれた田園の中に位置します。

施設の規模は、入所145床、短期入所5床、通所リハビリ定員1日60名で運営しております。また指定居宅介護支援事業所として担当ケアマネージャーが在宅サービスを希望されている方々の相談にのり、関係機関と密に連携をとりながらケアプランを作成し、サービス調整を行なっております。

建物の前方には広々とした回廊式の車椅子通路に囲まれた庭園、ふれあい動物園、ミニ果樹園があり、入所者及び通所者のレクリエーション活動や憩いの場として利用されております。

また、当施設より徒歩1～2分のところには協力病院があり、当利用者様の力強い支援をしております。



入野ケアセンター

当施設は佐鳴湖の南側に面した雄踏バイパス沿いに位置し浜松市中心街から車で約10分ほどの交通利便性のよい街場の介護老人保健施設です。

「施設入所」をはじめ「短期入所」、「通所リハ」、「訪問介護・看護」、「居宅介護支援事業所」を併設しており、リハビリを中心に利用者様のニーズに応じてサービスを提供しております。

併せて湖東病院、和恵会記念病院とグループ内に介護療養型医療施設も併設しており、利用者様一人一人に応じた質の高い医療・介護サービスの提供が可能になっております。

また年間を通じて、大正琴などの演奏会やマジック、動物介在活動など様々な地域のボランティアの方が来所され、職員、地域住民が一丸となつてご利用者様の明るく充実した生活のお手伝い



ができるよう日々業務に取り組んでおります。

今後もご利用者様、ご家族様、そして地域の住民の方々からも喜ばれる施設づくりを目指していきたいと思ひます。

白梅ケアホーム

当施設は、浜松市西部に位置し、自然に恵まれた高台からは眼下に浜名湖の美しい景色が見えます。

本年度も、利用者様が楽しみにして下さる「白梅秋祭り」を開催しました。

多数のご家族も参加してくださり、また、地元自治会屋台の来訪、和太鼓や大道芸のボランティアさんなどのご協力もあり、1日中利用者様の笑顔の絶えない行事となりました。利用者様の多くの笑顔は、職員にパワーをくださいます。

今後も、様々なアプローチで利用者様の笑顔を、より多く引き出していけるような工夫を行っていきたくと考えております。

また、地域の皆様との交流を一層深め、地域から愛される施設でありたいと思っております。



エバーグリーン掛川



エバーグリーン掛川の朝のフロアで「おはようございます」。その日によってフロア全体の雰囲気も微妙に違ったりして、笑顔の方、大

声の方、無表情の方、何かに夢中で振り向かない方、様々な利用者様がいらっしゃいます。今日のレクでは元気良く歌って頂けるかな？朝は食欲が今ひとつだったけど、昼食はいっぱい召し上がっていただけるかな？歩行訓練では距離は伸びるかな？入浴はいい湯加減で楽しんで頂けるかな？施設という「箱」は同じでも、毎朝新たな緊張で1日がスタートします。

今年で開設から15年になりますが、今年も初心を忘れず、良い緊張を保ち、温かな笑顔でのサービスを心がけていく所存です。よろしくお願いいたします。



於保老健センター

当施設は、平成8年4月に開設し、今年で16年目を迎えます。

磐田市の南部、旧福田町に位置し、入所定員80名、通所リハビリ定員20名、他居宅介護支援事業所にて運営しています。

いつも温かい笑顔や声で囲んであげられ、利用者さん・支えるご家族双方にとって満足いただける援助を提供できるよう日々研鑽に努めています。そして、常に現状に満足することなく色々な面で向上していくことを目指せる集団でありたい、そう考えています。



さいわい

当施設は、緑豊かな浜松市の北部に位置する、開設14年目の施設です。

当施設では、ご利用者様により豊かな生活を送っていただく為に、様々なクラブ活動をご用意しています。その1つ『園児と遊ぶクラブ』をご紹介します。

このクラブでは、近隣にある保育園の協力のもと、月に2回程園児との交流を行っています。ご利用者様が保育園に遊びに行ったり反対に園児たちが当施設に遊びに来たりしています。ゲーム・歌・工作…様々な活動を通して、世代を超えた交流が繰り広げられています。参加された方々には、自然と笑顔が生まれました。

今後も、ご利用者様に楽しく、心穏やかな生活を送っていただけるよう、職員一同努めていきたいと思っております。



すずかけの街

当施設は、浜松市中心市街地、遠州鉄道の八幡駅徒歩3分の立地に、平成9年2月にオープンいたしました。

医療療養病棟のすずかけ病院（110床）を併設し、入所100名、通所30名の都市型複合老人施設となります。

5月の浜松まつりの際には、地元の八幡町の子供会の皆さんが、玄関前で練りを披露して頂いています。

8月末の日曜日には、施設、病院合同で、職員はじめ、ボランティアの皆さんと協力し、夏祭りを開催しています。

このように、季節折々に様々なイベントが開催され入所者の皆様に好評です。

今後も様々なイベントなどを通じ、利用者の皆様には、楽しく充実したサービスを提供できるよう、努めてまいります。



さくらの苑

JR磐田駅からほど近い立地の当施設ではありますが、近くには野鳥が多く生息する自然豊かな大池もあり、穏やかで明るい空気に満ちています。また、平成10年5月に開設した際には小さかった桜の幼木も、この12年ですっかり大きく成長しました。今では「さくらの苑」の名前に相応しく、施設の周囲をぐるりと桜の木が囲み、利用者様にも地域の皆様にも愛され、親しみを持たれる施設へと成長して参りました。

当施設では、併設のクリニックと共に、これまで培ってきた慈しみの看護・介護の心と経験を拡充し、さらに明るく充足した療養生活を送っていただけるよう職員一丸となって取り組んでいます。笑顔溢れる季節の行事、カラオケなどのお楽しみ会、誕生会、散歩や遠足、おやつ作り教室、お寿司バイキングはじめ、地域の幼稚園や小学生、ボランティアの皆さんの慰問や支援活動も大きな楽しみになっています。

今後も利用者の方々に御満足いただき、地域の皆様に愛され、職員にとっても働きがいのある「さくらの苑」の名前に相応しい温かみのある明るい施設となるように誠心誠意努めてまいりたいと思います。

おおふじ五幸ホーム

おおふじ五幸ホームは、平成10年4月に開設した入所定員100名、通所リハビリテーション定員60名の施設です。磐田市大久保に位置し、施設前には茶畑が広がっています。看護、介護、リハビリ他職員一丸となって、御利用者様の心身のケアの充実に取り組むことはもちろん、御家族様にも安心していただける施設であり続ける様、日々努力しております。

毎日のリハビリ・レクリエーションの他にも、季節ごとの行事やボランティアの方によるイベントなどを多数企画・実施しており、1月には恒例の新年会を催しました。職員による獅子舞の披露もあり、御利用者様、御家族様、職員の皆が笑顔いっぱいのお会となりました。



袋井ケアセンター

袋井市の北部と森町一宮に近い萱間の山の中間に位置する所に袋井ケアセンターがあります。1階は通所リハビリ（デイケア）、2・3階に各50名の入所者が生活しています。年間を通じての行事は、地域の小中学生との交流会、ボランティアの方々による演奏会、演芸会、職員によるお花見、七夕、夏祭り、運動会、秋祭り、クリスマス会等数多くの行事を行い利用者、入所者の方々に楽しんでもらっています。通所利用者は少人数ではありますが、99歳の女性を中心となって四季にあった題材で「ちぎり絵」を制作をして、1階の大きな壁に展示して入所者、その家族、来訪者、職員の目を引いて喜ばれています。今年は日本昔話を題材に取り組んでいます。一度ご来訪ください。



神子の園

掛川駅の北東約3kmに位置する当施設は、平成11年4月に開設し、今年で13年目を迎えます。定員は入所100名（うち認知症専門棟50名）通所60名です。また近くに地域密着型事業としてグループホームと認知症デイサービスセンターを併設しています。

当施設では、季節感を大切に各種行事、レクリエーション、クラブ活動、食事等に力を入れています。また、毎日の散歩を取り入れており、利用者の表情も明るく豊かになっています。リハビリテーションにおいてもパワーリハビリを導入し、機能回復や維持に努めています。今後も全職員一丸となって、明るく活気があり安心して利用して頂ける施設を目指し努力していききたいと思います。



はまおか

老人保健施設「はまおか」は、遠く富士山を望める小高い丘の上に建ち、南に遠州灘を一望する大変恵まれた療養環境のなか、利用者様に目標を持って楽しく生活していただき自立した日常生活を営むことが出来ますよう常勤理学療法士4名、作業療法士1名にて必要なりハビリテーションを行い、尊厳に満ちた生きがい作りや居場所探しの支援をさせていただいております。

当施設は、市立御前崎総合病院に併設された全国的にも珍しい療養型施設、老健施設、通所リハビリ、訪問看護などを行なっている介護と医療の複合公的施設です。

スタッフ一同「安心と安全、思いやりのある介護」をモットーに質の高い介護を目指しております。



まんさくの里

静岡県最西端、湖西市に位置する当施設は、今年の春で開設11年目を迎える老人保健施設です。定員は、短期を含む入所100名、通所30名です。

当施設では、新年会・節分・雛祭り・納涼祭・文化祭・クリスマス会など、1年を通して、利用者様が季節を感じ、楽しくアクティブな入所・通所生活を満足して頂けるよう努めております。また、利用者様の趣味・特技を活かしたクラブ活動では、習字・俳句・生花・カラオケ・絵手紙と各々に先生を迎え、11月の作品展に向けて本格的に行っています。加えてPT4名、OT2名で介護予防・認知症対応のリハビリも充実しています。

今後もより良いサービスを提供し、利用者様の一層の笑顔を引き出せるよう、職員一同努力をしていきたいと思っております。



白脇ケアセンター

当施設は、浜松市南部に位置し、屋上には80mの遊歩道のある庭園、2階バルコニーには、植栽した庭園など緑化を推進しており、北部には南アルプスを背に、アクタワーが見え、快晴の日には富士山が見えます。

このように恵まれた環境にある当施設は、「親切・丁寧・平等」の理念の基、ともに手を取り、自立した生活を目指せるように、日々サービスの提供を行っております。

季節にあった行事や各種ボランティアなど御利用者様に楽しんで頂ける企画で、アクティビティーの充実にも、より一層の努力をおしまぬよう取り組んでまいります。



花平ケアセンター

「花平ケアセンター」は、浜松市の北部に位置しており、自然豊かな北区引佐町を中心に地域密着を掲げ、今年で10年目の春を迎える事になりました。

法人理念であります『私たちは利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスを提供します』を胸に日々取り組んでおります。

今年も、「初詣ツアー」や「長寿祈願祭」を行い、また以前利用者様に好評でした「マグロの解体ショー」も行いました。20kgもある大きなマグロを手際よく解体し、昼食に刺身を提供して美味しくいただきました。

利用者様と一緒に楽しみ笑う。そして、一緒に悲しみ寄り添う。身近な幸せや感動が私たちの喜びです。そのようなサービスをこれからも取り組んでいきたいと思っております。



ケアセンター 芳川

ケアセンター芳川は、浜松市南東部に開設して7年が経ち、昨年3月に併設の診療所（内科・血液内科）を開院しました。

当施設は、1階に開放的なスペースを設けた定員60名の通所リハビリテーションと、リハビリ専門のプールを完備しています。2階3階はユニットケアを取り入れた定員100名の入所スペースになっています。



入所部門では、8～10名の各ユニットが中心となつて、日々の生活を送り、専門スタッフによるリハビリテーションや食事・入浴・排泄など、24時間の介護を通して1人でも多くの方がご家庭に戻られるように取り組んでいます。

通所リハビリテーションでは、ご家庭での生活が少しでも長く続けられるように、機能訓練や日常生活訓練などのリハビリテーションを提供します。又、職員が工夫を凝らして行う季節の行事や、ご利用者様と作る食事レクリエーションは毎回好評です。



これからもケアセンター芳川では、出会いを大切に、明るく家庭的な雰囲気の中で、皆様に安心して過ごして頂けるよう努めて参ります。

みかたはら介護老人保健施設

当施設は浜松市北区三方原町の閑静な教育地区に位置し、開設8年目を迎えました。

スタッフも質量ともに充実し、特にリハに力を入れ、通所リハビリでは毎日個別リハを行い廃用の悪化防止に努めています。地域の住民の方々との交流も盛んになり、浜松祭りの練りの披露や、こどもラッパ隊の施設への慰問も行われています。レクリエーションも増え、毎日のレクの他に9月の敬老会、12月のクリスマス会では職員の寸劇や、出張握り寿なども行っています。

入所者の高齢化、重度化が今後益々進んでいくことが予想され、老人保健施設に求められる責務は益々困難になると考えます。施設の職員一丸となって、各々の専門性を生かして皆様の期待に応えられる様に更に努力していきたいと思っています。



あおばケアガーデン

あおばケアガーデンは、遠州横須賀の城下町、掛川市南部（旧大須賀町）の福祉施設ゾーンの一角にある開設8年目の施設です。

当地には、静岡県無形文化財に指定されている「横須賀三社祭礼囃子」があります。このお祭りは、江戸時代、遠州横須賀城主が江戸の祭礼囃子を家臣に習い覚えさせこの地に伝えました。市民の熱き思いのもと毎年4月に地元のお祭りとして催されます。施設では8月の納涼祭に、祭礼保存会の皆さんによるお祭りを披露していただき、ご利用者に本物のお祭りを楽しんでいただいています。祢里を引く綱の感触や慣れ親しんだ「シッタシッタ」の掛け声は、昔の記憶がよみがえり自然とお祭りを盛り上げてくれています。

あおばの理念「老いも若きも みな共々の支え合いたる緑の絆」（あおばの歌より）を胸にご利用者の心に寄添うケアを目指しています。



天王介護老人保健施設

天王介護老人保健施設は、天王病院（認知症専門病院）開設当初から「心と心のふれあい」、「親切と信頼の医療」を礎に今日まで信頼と実績を生かして平成15年8月に開設しました。



入所定員100床（全認知症専門棟、全個室）、通所リハビリテーション定員40名で運営しております。

各個室には障子の窓を配置するなど和の雰囲気を漂わせ、全室個室化により入居された皆さん個人の主体性を尊重する事ができ、規則正しいリズムある生活を送ることによって、本来のご自分を取り戻す、そんなハード面での環境の提供もしています。



季節に合わせた行事「お花見」や「クリスマス会」、「餅つき大会」を行っており、年中行事として「ちんどん行列」も行っています。

さわだの庄

当施設は、ご家族や地域の皆様からの多大なご支援、ご協力を賜りまして、開設6年目を迎えることが出来ました。



利用者様の生活機能の維持・向上を支援し、生活訓練を中心としたリハビリテーションを実施するなど、安心で質の高いサービスの提供を行っています。中でも日々のレクリエーションは好評で、スタッフは、利用者様により楽しんで頂けるよう日々工夫を凝らしています。

また、昨年より始めた“さわだ農園”では、利用者様や職員で野菜の栽培に取り組んでいます。採れたての新鮮な野菜を使い、皆様と一緒に季節を感じることの出来るおやつ作りなどは、大変好評頂いています。



今後も基本理念の遵守と、施設の開放・地域との融合を意識した施設づくりを目指し、一層の努力を重ねていきたいと考えております。

風の杜

風の杜では、ご利用者様が充実した日々を過ごされるよう様々な取り組みをしています。月に一回程度、外部講師を招いて、集団レクリエーション、音楽療法、エアロビクス体操などを実施しており、大変好評です。

他にもご利用者様のご要望に応じて、お抹茶、絵手紙、大正琴、カラオケ、ヨガ教室、家庭菜園などを随時行っています。

また、定期的に、地元保育園園児による和太鼓・鼓笛隊の可愛い演奏や、地元高校吹奏楽部の見事な演奏を楽しんでいただいています。

これらは、地元の方々やボランティアの方々の温かいご支援があるからこそ実現できます。

森町は、お年寄りに優しく、支えていこうとする住民が多い町ではないかと感じます。風の杜職員一同は、町民の皆さんの心意気に目一杯応えられるよう頑張る所存です。



ナースングホームオンフルール

「笑顔とやさしさ」で支えあう

人生に安らぎと潤いを——これまで多くの高齢者のみなさまに医療と看護、介護とリハビリテーションや相談業務などを提供し、多くの方々に喜ばれてきました。

常に明るい笑顔で接し、お互いの信頼の中で安心・安全の日々を満喫していただくように配慮しています。

お一人お一人の生活状況に応じたりハビリを重視し、年間を通して実施される行事やイベントを楽しみながら、心身機能の維持向上をめざして精いっぱい励んでいます。

これからも「笑顔とやさしさ」で支えあい守りあって、ご利用者様が真に恵まれるケアが提供できるよう職員一同“すばらしい楽園”を築き上げていきたいと願っています。



●夏まつりには、いくつかの模擬店に、ご利用者様たちが列をなし多忙な一ときを過ごしました。

白梅豊岡ケアホーム

白梅豊岡ケアホームは、磐田市北部の旧豊岡村にございます。浜北大橋の袂に位置している為、磐田市内に限らず周辺地域の皆様にも多くご利用頂いております。

新しい環境に慣れ、施設生活が少しでも明るく楽しいものになるように、私達は「施設行事」を大切にしております。中でも、毎月のお誕生会は恒例行事となりました。お手製（本物そっくり！）のケーキが登場し、一人ずつ火を消して頂きます。また、ボランティアさんによる手品や楽器演奏も楽しみの一つとなっております。年を重ねるごとに「一年」の重みは変わってゆきますが、皆様のお顔を拝見しておりますと、いくつになってもどんな状態の方であっても「お誕生日」は格別であると感じます。これからも皆様の素敵な笑顔が見られますように、職員一同精一杯のケアに努めてまいります。



長 鶴 の 郷

当施設は今年の4月で丸4年を迎える浜松市で一番若い老健です。

老健の理念である在宅復帰に力を注いでおり、昨年は在宅生活支援のひとつとして家族介護教室をスタートしました。ご家族の声をより多く集めることにより、回を増すごとに実用的な教室作りに繋げることが出来ました。

レクリエーションではドライブでバラ園散策に出掛け、高校生が一生懸命育てた多彩なバラの甘い香りに癒され、その美しさに皆様感動される瞬間に立ち会うことができました。

笑顔の中で、鶴が羽ばたくようにご家庭に戻っていただける様、今後も全職員、全力でサービス提供に努めていきます。



五 洋 の 里

当施設は、平成18年7月に開設し、今年で6年目を迎えます。入所定員90名、通所リハビリテーション定員は一昨年より20名増やし40名とし、地域に根ざした信頼されるサービス提供に努めています。

季節ごとのイベントや日々のレクリエーション、リハビリの充実など明るく楽しい雰囲気の中で生活できるよう、趣向を凝らしています。12月の集団リハビリでは、リハビリ職員が仮装で登場し、クリスマスを盛り上げ、利用者様の笑いをさそう場面もありました。食事においては、ご当地メニューと称し、各地方の郷土料理を毎月提供し、料理の説明に耳を傾けてくださる方も増えています。

今後もご利用者様やご家族、地域住民の方々に喜ばれる施設を目指して、職員一丸となって頑張っております。



集団リハ風景

ご当地メニュー
「手作りずんだおはぎ」



えいせい掛川

えいせい掛川は、平成19年4月に開設し、今年5年目を迎えます。支えて下さった多くの皆様方のおかげと感謝申し上げます。

「地域の皆様と共に、開放的な施設を」と、今年も努力して参ります。

今年1月、ボランティアの方々と職員で初釜を開催しました。初めてお抹茶を体験される方も多く、入所者様自らお抹茶を点ていただく事も出来ました。ユニホームとは違う職員の和服姿も話しのネタになり、所作はともかく楽しく美味しいお茶会となりました。

これからも季節感溢れるレクリエーションを通して、入所者様の笑顔を大切にしていきたいと思っております。



あ ら た ま

四季の変化をありありと感じられる緑豊かな地に当施設が開設され、この秋で6年目を迎えることになりました。常に「より良いケアとは」と問い続けることを忘れずに、ご利用者様と共に悩み、奮闘しながら1歩1歩進んできた当施設ですが、現在は地域社会とのつながりを重視し、地域のボランティアさんを積極的に招待したり、地元の小・中学生を招いて交流をもってもらったりしています。

また今後は、「より良いケア」を具体的な形で示せることを目指したいと考え、研究発表にも力を入れていけたらと、職員一同はりきっています。



県内の新設介護老人保健施設を 紹介します。

あしたかケアセンター 沼津市

介護療養型老人保健施設「あしたかケアセンター」は、転換型老健施設としましては全国で3番目の開設となり、当初は平成20年9月に56床でスタートし、平成22年4月に19床を加えて計75床の体制が整いましたので、この度、静岡県老人保健施設協議会に入会させていただきましたが、当法人（医）愛康会としましては「タカネ園」「椎路の里」に続きまして3施設目の入会となりました。当施設は、従来型の老健施設と比較してももう少し医療ニーズの高い利用者に対応できる機能を備えながらも、家庭的な生活環境を提供できる様努めておりますが、グループの3施設連携はもとよりそれぞれの実績を生かして運営していますので、今迄の経験が大いに役立つ結果となっております。前述の2施設共に「県老健協議会」におけるご指導・情報提供や、職員研修会等による研鑽を積み重ねの提供をいただき、地域社会に貢献できる施設を目指してこれまで努めて来る事ができました。今後も当施設を加えまして3施設に対するご教示をお願いする次第であります。当法人では「高齢者（ご利用者）を敬う その人間性を重んじる」を基本方針として励んでまいりましたが、現状はそれぞれのご利用者の心身機能だけではなく、生活環境に大きく影響される数多くの対象があり、それに対応する為には我々老健の職員一同がより奥行きのある人間性を備えることが必要と思っております。今後より一層地域の皆様のご期待に添える様、ご利用者やご家族の気持ちの安らぎを求めて努力を続ける所存でございます。



新富士ケアセンター 富士市

介護老人保健施設「新富士ケアセンター」は富士市の北部に位置し、南側の居室の窓からは、富士市街と駿河湾を一望でき、北側には霊峰富士が聳え立っております。

平成22年8月に新富士病院の一部、介護療養型医療施設から転換した入所定員104床（短期入所療養介護含む）の介護老人保健施設です。併設となる新富士病院（医療療養病床）の協力病院関係は変わらず。比較的介護度が重度な入所者に対し、木目細やかな質の高いサービスを提供するために、医師をはじめ看護師・介護職員・リハビリスタッフ・管理栄養士・相談員といった様々な職種が定期的に集まり、話し合いを通じ連携をとっています。また、病院のスタッフとして司った知識と経験に介護技術を身に付けることにより、入所者の方々により安心して療養生活を送って頂けるよう努力していきたいと思っております。

新富士病院以外に同一敷地内には、在宅部門（通所リハビリテーション・訪問看護・訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与等）と、介護老人保健施設ヒューマンライフ富士があり、協力体制を生かして「入院或いは入所、在宅、医療から介護まで」と幅広いサービスを提供できるので、より良いサービスを選択して利用できるシステムとなっています。

今後更向上心と日々の努力を忘れず、入所者の満足度向上、そして、地域に愛される施設を目指します。



クロヤナギ介護老人保健施設 浜松市

クロヤナギ介護老人保健施設は、平成21年8月1日に開設しました。

当施設は、三ヶ日インターから西へ車で3分程の距離に位置し、浜名湖を望み、山々に囲まれた温暖な気候に恵まれた三ヶ日の自然の環境の中、安心して暮らせる療養環境を、私たち職員一同、真心込めてご提供させて頂きます。

施設の主な役割・特徴などは、従来からある「介護療養型医療施設」の機能を踏襲しており、主に医療ニーズの高い利用者様が多い施設です。また、在宅生活をサポートする通所リハビリテーション、診療所が併設されており、地域福祉・医療ニーズに幅広く対応できる施設であるよう、常に努力しています。今後も福祉・医療の拠点になるよう頑張っております。



看護・介護部会

平成22年度の看護介護部会は、県西部浜松医療センターより松井泰子先生を講師にお招きし「介護現場における感染症対策の実際」をテーマに講演をしていただきました。ノロウイルスやインフルエンザの感染が毎年ニュースになり、どの施設でも課題になっているかと思えます。

ノロウイルスやインフルエンザなどどのようにして感染拡大していくかを解説していただくことで標準予防策の必要性や有効性をより深く理解することができたのではないかと思います。

マスク、手袋、エプロンなどの防護用具は正しい使い方をすることで効果を十分に発揮するものです。つける時だけでなくはずす時にも注意が必要だということも知っていただけたと思います。付け方はずし方の実演もありより解りやすかったのではないのでしょうか。

参加された方からは「手洗いの重要性を再認識することができた。」という声が多く聞かれました。決して難しいことではありませんが日々の意識付けが重要となります。

それぞれの施設で改善するべきところはあったでしょうか。ぜひ今回の講演を参考に感染対策をしていただきたいと思います。

これから看護介護部会を利用者へのケアについて積極的に意見交換できる場にしていきたいと考えています。



リハビリ部会

平成22年度のリハビリ部会は、7月21日に静岡総合福祉会館「シズウェル」にて開催しました。梅雨明けの蒸し暑い中、36施設50名の参加を頂きました。

今回グループワークを行いました。今後の交流の足がかりになればと思い、グループをできるだけ近隣の施設でまとめました。

テーマは「施設紹介」と「短期集中（認知・ショート）リハビリ加算について」とし、業務の工夫や他部門との連携、各施設の現状と問題点についてディスカッションして頂きました。



リハビリ加算については開始して数年が経ち、スムーズに行

えているようでしたが、加算終了後に週2回となる訓練についての内容や、ターミナルの利用者が増えてきている中で、リハビリとしてどのような取り組みをしているか等、試行錯誤している様子が見受けられました。

また、最近短時間デイを始めた施設の発表では、パワーリハビリよりも、個別リハビリの希望が多いことや、思っていたよりより介護度の重い方の利用があり、限られたスタッフの人数での対応が今後の課題と話され、とても参考になりました。

他職種から見れば、まだまだ少ない人数で行っているリハビリ業務。リハビリ部会が情報交換の場、交流の場となり、業務の参考となるよう、今後も企画・運営していきたいと思えます。

栄養部会



平成22年度の栄養部会が、静岡県総合研修所「もくせい会館」にて平成22年11月15日に37施設47名、又平成23年2月18日には静岡県総合社会福祉会館「シズウエル」にて30施設46名の参加を頂き、二回にわたって開催されました。

第一回の栄養部会では、グループワークをはじめ、「各施設の人気メニュー」という内容でレシピを紹介して頂き、楽しく試食会も行いう事が出来ました。今回の議題では、「体調不良の方、低栄養の方及び嚥下困難な方への食事提供」「ターミナルケアの栄養ケア」「施設サ―ビス計画書と栄養ケア計画書の一元化」等をテーマに各施設の具体的な取組みを聞き、活発な意見交換を致しました。



第二回の栄養部会では、学校法人鈴木学園静岡校教頭の望月和子先生を講師にお招きし、「より良い食事提供を目指して」をテーマにお話とレシピ紹介をして頂きました。「見た目・味・音・舌触り・香り」から食事はより美味しく感じられる事等話をされました。又先生は帝國ホテル故料理長村上氏にお会いした時、頂いた言葉を紹介してくれました。「料理の極意、それは優しい愛情と工夫、真心です。」先生はその言葉を今でもずっと大切にされているそうです。私達もその精神を胸に、日々励んでいきたいと思います。

第2回 栄養部会で講師の先生より頂いたレシピです。ご活用下さい。

①【さわやかみかん寿司】



★材料(4人分)

- ・米……………2C
- ・水……………2.4C
- ・昆布……………10cm
- ・みかん果汁…大3(1個分)
- ・米酢……………大1
- ・砂糖……………大2
- ・塩……………小1.5
- ・みかんの皮…少々
- ・みかん果肉…1個分
- ・ハム……………4枚
- ・えび……………6尾
- ・絹さや……………30g
- ・生姜……………1片
- ・白葱……………1/2本

★作り方

1. みかん果汁は、袋から身ははずし、布巾で絞る。
2. 米は30分前に洗ってザルに上げ水気を切っておく。釜に昆布・水・米を入れて炊く。Aを合わせ、合わせ酢を作る。ご飯が炊き上がったら、すし飯にする。
3. みかんの皮を細く切る。果肉は袋ははずし身を出す。
4. ハムは、1cmの色紙切り、えびは殻付きのまま茹でて冷水にとり、殻をむき1cm位に切る。
5. 絹さやは茹でて1cmに切る。
6. 生姜はせん切りにする。白葱は白髪葱にする。
7. ③～⑥を飾る分を少し残し、すし飯に混ぜて盛り付け、残りを飾り、白髪葱を天盛りにする。



②【米粉入り ケーク・サレ】



★材料(8×18×6cm 1本文)

- ・卵……………2個
- ・薄力粉……………50g
- ・ベーキングパウダー…3g
- ・ガーリックパウダー…少々
- ・塩……………小1/4
- ・米粉ペースト……………50g
- ・牛乳……………100ml
- ・マヨネーズ……………25g
- ・バルメザンチーズ…40g
- ・クリームチーズ…40g
- ・人参……………50g
- ・玉葱……………1/4個
- ・マッシュルーム…5個
(缶詰のもの)
- ・絹さや……………少々
- ・桜えび……………5g
- ・白胡麻……………大1
- ・バター……………大1

★作り方

1. 人参は5mm角、玉葱も荒めのみじん切りにする。マッシュルームは薄切りにしてバター大1で炒める。絹さやも5mm幅に切って茹でておく。
2. 薄力粉・ベーキングパウダー・ガーリックパウダーを合わせてふるっておく。クリームチーズは柔らかく焼しておく。
3. ボウルに卵を溶き入れ、よく攪拌し、マヨネーズ・バルメザンチーズ・クリームチーズ・米粉ペーストを加え、塩を入れよく混ぜ合わせる。牛乳を入れ、さらに混ぜる。この中に②の粉類をふるい入れて混ぜ合わせる。
4. ③の中に①の野菜・桜えび・白胡麻を加える。
5. 型に紙を敷いて180℃で約30分焼く。

③【ガトーサーモン】



★材料(4人分)

- ・生鮭(60g〜70g)…1切
- ・卵……………2個
- ・牛乳……………大4
- ・生クリーム……………大4
- ・ブランデー……………小1
- ・カイエンペッパー…少々
- ・ほうれん草……………1/2束
- ・イクラ……………大1
- ・セルフィーユ…2枝
(ソース)
- ・白ワイン……………1/4C
- ・レモン汁……………少々
- ・バター……………大2
- ・塩……………少々
- ・胡椒……………少々

★作り方

1. オーブンを200℃に温める。
2. プリン型に少量のバターを塗る。オープンペーパーをプリン型の底に合わせて切り、底に敷く。
3. 生鮭をザク切りにし、ミキサーに大4の牛乳と共に入れかける。さらに卵・生クリーム・カイエンペッパーを加えて混ぜ合わせる。少量の塩を加え混ぜる。
4. ②の型に流し、天板に湯をプリン型の約1/3量まで注ぎ、約10分焼く。
5. ほうれん草は茹でて水に晒し、3cm位に切り、少量のバターでサッと炒める。塩少々をふる。
6. [ソースを作る] 小鍋に白ワインを入れて弱火にかけ、沸騰させアルコール分をとばし、バター・レモン汁を入れ混ぜ合わせる。
7. 皿にソースを敷き、ほうれん草を盛り④のサーモンを取り出す。この上にイクラ、あればセルフィーユを飾る。

④【鳥絲菜花羹】



★材料(4人分)

- ・鶏モモ骨付き…1本(200g)
- ・生姜……………1片
- ・酒……………大1.5
- ・水……………5.5C
- ・カリフラワー…中1個(150g)
- ・卵……………大1個
- ・ハム薄切り……………1枚
- ・パセリ……………少々
- ・塩……………小1
- ・胡椒……………少々
- ・片栗粉……………大1.5
- ・水……………大2

★作り方

1. 鶏は脂ののった鶏が良い。
2. 熱湯をかけ水できれいに洗って2つに切る。
3. 鍋に水5.5Cを入れて、鶏と生姜の漬したものと酒を入れて火にかけ、煮立ったら火を弱めて箸が通るようになったら鶏を取り出し冷ましておく。スープは濾して4Cにする。
4. 鶏肉は手で細かくさき、皮はせん切りにする。これをスープの中に入れて2〜3分煮る。
5. カリフラワーは塩湯で茹でて小さくはなす。(4分位)
6. カリフラワーをスープに入れ、5分くらいしてから、塩・胡椒で味を調え、片栗粉の水溶きを濃度を見ながら入れる。
7. 卵1個と卵黄と卵白に分けて溶き、卵黄を先に、卵白を後から入れる。スープ皿に盛り、その上にハムとパセリのみじん切りを散らす。(スープ皿は温めておく)



平成22年度 職員研修発表会

◆第1回 職員研修発表会の演題◆

平成22年9月22日(水) 10:30～16:00 静岡県総合社会福祉会館「シズウェル」

- ★「初めての実習生受け入れを通して学んだ事」 [えいせい掛川]
- ★「足のむくみ軽減への取り組み」
～下肢挙上とメドマーを比較して～ [グリーンヒルズ藤枝]
- ★「老健に於いて経鼻栄養から経口摂取が可能となった一例を通して」〔ケアセンター池田の街〕
- ★「認知症のある入所者への排泄ケアの取り組みから」
～ 職員の意識変化～ [なかよし]
- ★「キーワードはお手伝い」
～S.Yさんとのかわり～ [アポロン]
- ★『こころハ』でひとりひとりの今を見つめて
～いま「此处」で「個々」に取組む生活リハ～ [はるかぜ]
- ★「立ち上がり・歩行の介助方法についての意識及び技術向上への取り組み」
～看・介護職員へチェック表を使用して～ [グリーンヒルズ藤枝]
- ★『100点とれた! 嬉しい!』
～学習療法への取り組み～ [きよみの里]
- ★「利用者の能力維持を援助していくためには」 [白梅豊岡ケアホーム]
- ★「新規入所者が安心して過ごしていただける環境作りの一考察」
～ 職員の知恵と工夫でその人らしさを大切にしたケアの実践～ [すずかけの街]
- ★「小さな一言が一時の笑顔に」 [アポロン]

◆第2回 職員研修発表会の演題◆

平成23年2月16日(水) 11:00～15:10 静岡県総合社会福祉会館「シズウェル」

- ★「失禁ゼロを目指した個別排泄ケアの検討」 [グリーンヒルズ藤枝]
- ★「排泄ケアの向上及びおむつ使用の削減」 [まんさくの里]
- ★「1日利用者様体験を通して」
～ 今 私たちにできること～ [花平ケアセンター]
- ★「利用者本位のケアを目指して」
～ 現場から接遇の問題点を見直す～ [すずかけの街]
- ★「継続は力なり!」
～介護技術委員会の取り組み～ [さいわい]
- ★「普通型車イスによる快適なシーティングを試みて」 [ケアセンターゆうゆう]
- ★「シーティングによるADLの変化」 [さくら]

静岡県老健協主催 研修会参加レポート

部会に参加して…



今回の研修では、自分の知らないことも沢山あり色々学ばせてもらうことができました。また、自分のこれまでの仕事を振り返ってみた感染対策への取り組みができていなかった事が再確認できました。感染症は、外部から発生するものであるが、運ぶのは私たちの手指であるため利用者様と接する前は手洗いが重要である事、また手指は常に清潔にしておかなければいけない事、過剰な消毒は不要である事などです。感染は、自分の勤めている施設でも起こりうることで今回の研修で学んだ事を今後に生かし、感染拡大前に防止できるように努めていきたいと思いました。また、手袋やエプロンの正しい使い方を教えて頂き、今までの間違った方法を正すことができたことも良かったと思いました。

手洗いがどれだけ大事で感染を防ぐことができるか知ってもらうためにも利用者様や家族様、他の職員へ声かけできるようにしていきたいです。研修へ参加させて頂きありがとうございました。

介護福祉士

ノロウイルスやインフルエンザの流行を報道されはじめ、すぐにでも感染対策をしないといけない。そんな中、今回の研修では基本的な感染対策から、また、今までのやり方を見直さなければいけない点など、集中的に聞くことができました。

職場に適したどのくらいの対策ができるのか、きちんと考慮しながらまずは感染経路を断つための基本的な予防策をメインに対策していかなければいけないと感じました。いざ持ち込まれてしまった時のコストや労力を考えると職員全員での持ち込まないための努力にまず力をいれていきたいと思いました。

研修に参加させて頂きありがとうございました。

介護福祉士

グループワークの中では入所者が体調不良や低栄養の場合、点滴になってしまうことが多く、栄養士ができることは少ないのですが、その中でほんの少しでも楽しみとして、本人の好きな物を口にしてもらうことが、どの施設でも同じでした。また栄養ケアマネジメントを行っていても必要量を考えるよりも、本人が食べられるだけの食事を提供しているようです。リスクも十分に把握したうえで、喜んで食べてもらえる食事を提供していきたいです。そのための食事形態の工夫については、各々の施設でできる範囲の工夫を行っているということでした。また利用者が食べやすい形態を検討中の施設が多かったのも、私たち利用者にも喜ばれる、食べやすい食事を提供できるよう工夫していきたいです。

管理栄養士

今回感染対策についての講演に参加させて頂き、色々お話を聞いた中で、目からウロコのようなお話がたくさんありとても驚きました。

今まで私は、「こう教えられたから」「ここは清潔」という思い込みをしていたことに気付かされました。根拠のない対策をしていたことを痛感しました。しっかりと根拠に基づいた対策…その中でもやはり“手洗い”が一番基本的かつ有効であることを学びました。私も日々手洗いは気をつけてきたつもりでしたが、何かの「行為前」の手洗いは出来ていなかったことが多くあり、トイレ介助や入浴介助などついつい時間に追われてしまい手洗自体がおろそかになってしまっていたことに反省しました。

私はデイケア勤務ですので、外部との接触も多く、利用者様が感染経路であることも多くあります。そのような環境の中で感染経路をしっかりと遮断できる様、まず第一にできることは、来所時の手洗い・うがいであると思います。

今後は今まで行っていた手洗いの方法やマスク・グローブの外し方などを見直し、しっかりと根拠のある感染対策ができるように、職員一人一人皆で同じ気持ちで行っていきけるようにしっかりと今日のこの講演で学んできたことを活かして取り組んでいきたいです。ありがとうございました。

介護福祉士



現在の感染対策は、術前の剃毛や術後のガーゼ交換が不要であったり、消毒より洗浄や清掃が重要だったり、看護職の私が聞いても驚くような講義内容でした。今回の研修で学んだことや再確認したことを現在施設で行われている対策と照らし合わせて、手洗いの徹底と感染症を持ち込まないこと、また、感染経路を断つことを重視して今後流行してくる感染症に対応していきたいです。

老健施設対象の感染対策でしたのでとても理解しやすく興味深く聴くことができました。参加させていただきありがとうございました。

看護師

今まで思っていた以上に手洗いの重要性を感じました。「一つの作業ごとに手洗いをする」ところでは一日に150回手を洗うと聞き、実際中々難しいとは思いますが、今後その事を頭に入れて仕事していこうと思いました。

消毒よりも洗浄が重要、トイレ、手すりなども消毒でなく清掃の方が効果がある等いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。

介護職員



感染を拡大させる原因は、介護を行う私たちであること、“手洗い”の必要性を学び知識を深めることができました。感染対策の考え方や対応は日々変わってきているが、一番大切なことは職員一人一人がインフルエンザやノロウイルスなど感染症の感染経路を理解した上で予防に努めることであると思いました。また、それは、噂や誰かが言ったなどのものではなく、根拠に基づく対策でなければいけないことだと学びました。今回の研修では、正しい手洗いの方法・マスクの着用法・グローブの外し方を教えて頂きましたのでフロア職員にレクチャーできたらと思います。

研修に参加させて頂きありがとうございました。

介護福祉士

職員研修発表会に参加して…

忙しい日々の介護業務の中で毎日が流れ作業のように行われている現実がある。食事、離床、臥床、オムツ交換、入浴等一日の業務をただこなすだけでは介護の楽しみや充実感達成感はなかなか感じることができない。そんな中で「維持」ではなく「改善」を目指し、利用者と一緒に向き合うことを課題としていた発表内容があった。“利用者のトイレ排泄が自立する”“刺激への反応がみられる”といった具体的な目標を挙げ、部署全体で取り組んでいた。介護者への働きかけにより、利用者に良い変化が生じた時こそ介護者は喜びを感じられると思う。当施設でも実施可能であると考えた。

発表の中で、認知症は俗に寂しい病である。増田未知子氏の「かかわり方の原則」の中で寂しさから抜け出すには「優しさをシャワーのようにそそぐこと。具体的にはよくほめる、笑顔でうなずく、相手の目を見る、手を握る、肩を抱く、腕を組む、よく話を聞く、心から感謝する、スポットライトを当てる。私はあなたを大事に思っています。あなたは一人ぼっちではありません」というメッセージを行動を通じて伝える事で「自分は大切にされていると感じる」と書いている。認知症の方と接する中で役立てていきたい。

看護師



今回、静岡県内の老健施設の職員の方たちが集い、様々な施設より研究テーマに沿った発表会が行われ参加させて頂きました。主に介護福祉士の方を中心に、PT、OTさん、看護師さんのテーマ発表も行われました。それぞれ色々な角度から老健施設として、利用者様に係る問題点についてとらえられており、とても参考になる発表でした。足のむくみ軽減への取組み、経鼻栄養から経口摂取が可能となった一例を通してなどは特に開始前から開始後の経過を数値やグラフを用いて細かな分析をされており、非常に分かりやすく、興味深く聴かせて頂きました。他の発表も、自分たちの職場におきかえてみても共通した問題をかかえていたり、共通出来る事柄もあったり勉強になりました。認知症をかかえる利用者様にとって、やはり入所した頃というのは、生活環境の変化が大きいわけで、精神面でのケア、生きがいを見い出すためのレクリエーションやリハビリテーションをどう私たち職員が支援していけばよいのかを知るうえで参考にさせて頂く要素が沢山聴けたと思います。私も半人前の現在ですが、資格取得を目指し、利用者様とより深いコミュニケーションを図り、介護の勉強をすすめて行きたいと思います。

介護職員



今回、11ヶ所の施設より発表があったため以下に報告する。

- ・認知症ケアについて発表していた施設は3施設あり、どの発表も共通していたのは、認知症であっても施設でその人らしく生活が出来る様に環境を整えるということ、利用者個々の特性を十分に理解していたということである。情報収集やカンファレンスを行い、他職種との情報交換をしたことで同一の目的意識を持てたのではないかと。施設という限られた空間の中で、生活していく利用者にとって有用なことではないだろうかと考えさせられた。
- ・利用者、ADL、身体機能に関して発表していた施設は3施設あり、それらの施設は利用者のニーズや利用者が発しているサインに見逃すことなく対応したことが共通していると考えた。また、リハビリ職員と協力して介護職員が主体となって生活リハビリを勧めていくことで意識の変化がみられたという。
- ・足のむくみ軽減について発表した施設は、ベッド上で下肢挙上を行った状態とメドマーを使った状態の比較を行い、変化について発表した。比較の結果、下肢挙上とメドマーではあまり差はなくむくみに対して有効な結果が得られていない。しかし、倦怠感が緩和され、睡眠時間が増えた方や活気がみられる様になったという報告もあった。
- ・立ち上がり、歩行の介助方法について発表した施設は看・介護職員へチェック表を使用した結果について報告をした。チェック表を利用したことで介助方法の意識付けは出来たが、技術向上の判別がしにくかったこと、一部の環境内では使用が出来ず幅広い環境では難しいという課題も残ったということであった。
- ・学習方法について発表した施設では、対象者に対して著しい効果は得られなかったが、コミュニケーション量の変化や夜間の睡眠時間が増えたという多少の変化が見られたようだ。また、職員へ学習療法士からの指導を受け、担当制にしたところ利用者の変化に気づき、目を配る様になったという。
- ・実習生を受け入れた施設の報告は、実習生に対しての指導が不十分だったことと反省することが多かったという。

どの施設でも職種の域を超えて、利用者のためにケアを行うことで職員の意識改善になったり、担当者に対しても有用な効果が得られたと報告があったため、当施設も見習いたいと思う。

作業療法士



今回の研修発表会の参加で他介護施設のさまざまな取り組みを勉強する事ができました。どの施設も利用者様の事を第一に考え利用者様の目線の仕事に従事する取り組みが見られたと思います。入浴の発表をされた施設がありましたが、利用者様の対応で1時間かけて見守りで入浴というのがありました。本来は利用者様の事を考えてあげるのが1番だと思いますが、実際の現場では時間と人員がたりずできない面もあります。今回の研修では自分の現場でもやってみたらいいのではというのもありましたが、実際本当にうまくいくのだろうか疑問に思う点もありました。これからは勉強して利用者様にプラスになる事ができる様に心がけたいと思います。

今回研修の機会を与えて頂きありがとうございました。

介護職員

興味深かったことは“認知症のある入居者への排泄ケアの取り組みから職員の意識に変化がみられるようになった”という発表です。

今年度当施設の排泄委員会の取り組みでも“おむつからトイレ排泄への移行”を試みていますが果たして介護者の意識がどうだろうかと考えてみました。

ただ単に、トイレでの排泄ができるようになれば良いと、ここまでの結果しか求めていなかったことに気付きました。だからどうなのか、そのことによって職員の利用者に対する意識、対象の人だけでなく他の利用者は…と考えてみるとやはり不穏行動が排泄のサインであったり、その先にある何かをみつめていくことが大切なのだと感じさせられました。とても参考になりました。

もう1つは副題“いま「此处」で「個々」に取り組む生活リハ～”です。職員にとっては流れ作業と言っても過言ではないような現実の中でも利用者にとっては、いまこの時が1人1人の生活リハなんだということをもっと意識して接していきたいと思います。

介護福祉士

11件の研究を拝聴し、各施設の職員、日々の忙しい業務の中でよく勉強し、研究されていると感心いたしました。中には一年に渡って研究を続けている案件もありました。

皆さんそれぞれに、利用者さんのADL、QOLの維持向上できるようないろいろな視点から研究されていて、とても勉強になりました。また利用者さんの心理的な面にも、細やかに配慮されていると思いました。

「足のむくみ軽減への取り組み」でダンボールで手作りした、下肢挙上で、むくみに効果があったので通所でも下肢挙上を工夫していけたらいいと思います。

認知症で徘徊・暴言の対応については職員と一緒に簡単な仕事(コップ洗い、カーテン閉めなど)を手伝っていただいたり、声かけを多くするなど、かわりを多く持っていくうちに落ちついていく時間が多くなったとありました。

認知症は職員側の思い込みによる対応ではなく、利用者さんのADL、QOLの向上を意識して安心して生活できる場所を作るよう取り組みたいと思います。

利用者さん一人一人に対応するのは、職員にとっても簡単なことではありません。職員も精神的に安定を保ち、冷静に判断し、対応していくには日々の勉強と、やはり身近に支えてくれる人がいてくれることが大事だと思います。(職場、家庭など)利用者さんの状態や変化、気持など、職員同士で情報交換し共有していくことが大切だと思います。

介護職員

全国大会と東海北陸ブロック研修レポート

演題数が大変多い中で特に在宅支援について興味深かった。

在宅復帰率に関しては10%台のところから68%を誇るところもあり、施設の目指す方向性にばらつきがあることが分かった。在宅復帰率68%の施設は、3ヶ月で退所し、自宅で3ヶ月過ごし、また3ヶ月入所するリピーターを多く持つことで成り立っているということであったが、そのため職員の負担もかなり大きいということだった。

また、在宅復帰に関することで興味深かったものに在宅支援パスの作成があった。この施設でも、生活が長期化しているケースについて適切な時期に統一した評価・調整し他職種と連携し安心して退所できるようにということを取り組みを始めたということであった。パスの構成メンバーとして介護福祉士・看護師・理学療法士・介護支援専門員・支援相談員とし、ツールの作成、職種別に分類、確認時期項目を一覧できるようにしていた。また期間を入所判定・ケアチェック・1ヶ月・2ヶ月・3ヶ月・退所前に区分して確認項目を整理していた。パスの作成は他職種の情報共有が容易になり進捗状況の確認もスムーズになり大変有効だと考える。当施設においても同様の問題があり、この施設におけるパスの考え方は大いに参考になるものであった。

全国老人保健施設大会に初めて参加したが、同じ介護老人保健施設の中でも施設によって施設方針が全く違い、それが発表内容にも反映しており大変興味深かった。

看護師

他施設の演題の中で、看取り、不眠への対応、ケアの工夫を主に聴講した。

看取りに対しては、各施設対応の差があったが、共通していることとして、介護、リハスタッフの不安、方針との矛盾、同意書、マニュアル等の整備が挙げられていた。

看取り対応の差は、2～3回/年、1.2回/月、1.2回/週とそれぞれである。いずれも看取り加算を取るようになり、ターミナル期に家族へ医師説明と意向確認、同意書、急変時のマニュアル整備、エンゼルケアの対応マニュアル等、細かな対応をしていた。医師による演題発表もあり、ターミナル期と看取りの違いについても述べていた。(ターミナル期は急変リスクが予測される時期、看取りは食事摂取困難となった時との見解) 実際向き合うスタッフはかなり不安と精神的負担が大きく、メンタルフォローが課題という施設も多かった。医師の当直を望む声もあった。対策として家族の意向をしっかり確認し、施設対応として出来ることを明確にしておくこと、状況によって対応すべき事柄が会議や勉強会にて確認していたことが印象的であった。また、看取りに関することで、介護職員のモチベーションは上がることもあるという報告もあった。うまくいっているケースについては、家族から退所後の聞き取りやアンケート対応ができているところもあった。いずれにしても、準備と動機づけ、フォロー体制の確立等、が必要不可欠であり、我が施設での看取り対応について、幾つかの課題が見えた。

福祉機器展ではオムツ、ベッドの機能が格段に良いものがあった。改築、建て替え時の良い資料が得られた。また、嚥下能力への向上が期待できる製品等興味深い物があり、サンプルもいただいてきたため、ケースを検討し、試していきたいと思う。収穫の多い研修参加であった。

介護福祉士

今回行われた東海・北陸ブロック老健大会では、理学療法士や作業療法士による研究発表が多いように感じました。リハビリ関係の発表では、専門用語がたくさんあり、その言葉がどのような事を指しているのか分からないことばかりでした。しかし、同じ施設の中で他職種と連携をとっていく上で、仕事場で使用するような専門用語は少しでも理解しておかなければいけないと思いました。

今回の老健大会の中で特に印象に残ったのがヒヤリハットに関する発表です。どの施設においても起こりうる事柄のため、発表がとても身近に感じました。事故が起こる時間帯をデーターとして収集、分析しどのようにしたら防げるのか、方法を考え、実践し、実際に事故の件数が減少した。という発表にはとても感心しました。

他にも、利用者様が以前していた仕事を活かしてのレクリエーションでは、利用者様の何気ない言葉や行動から情報をくみ取ることの大切さを学びました。そこには、職員の観察力などのスキルアップにつながる要素が含まれていると思いました。それ以外にもたくさんいい発表があり、色々勉強になりました。

今回2日間の老健大会で学んだことを職場で有効活用していけるように日々努力していきたいと思っています。

介護職員



その他の研修会レポート

身体拘束廃止フォーラム

講演では身体拘束が行われた医療の経緯と拘束による弊害について学んだ。医療の進歩に伴い、様々な病気の治療ができ命をとりとめる人が増加した。命が助かってでも人の手を借りなければ生きていけない人が増え、老人病院がたくさんつくられた。その頃は配置基準も悪く家族が付添家政婦を雇っており、拘束は日常的にあったものだった。1998年に抑制廃止福岡宣言が出され、ここから廃止への取り組みが具体的に始まっている。拘束による4つの弊害：身体的、精神的、施設内（スタッフへのダメージ）、社会的（老年期への不安、老年医療の評価の低下）拘束によって弊害が増えるばかりで悪循環を起こしている。スタッフの対応で起こる弊害は多い。介護に対し前向きに、より良くしたいという意欲が拘束を減らせると感じた。

実践発表でミトン廃止の取り組みではチェックシートを使用し、いつもの業務の中で負担少なく行える方法であり段階的に解除できるため、当施設でも参考になると思う。スピーチロック廃止の取り組みで「ちょっと待って」「ここにいて」などの言葉を禁止とし、言葉を置き換え理由づけすることで声掛けをする際に言葉を考えていえるようになったとの報告があった。全体の発表を聞いて、当施設でも委員会を中心にアンケート調査や定期的な見直しをして減らす取り組みができていて感じた。職員の意識、理解が一番大切であり、そのために認知症の理解、拘束についての勉強会、研修が必要である。スピーチロックをなくすことは苦情を減らすことにもつながり、拘束廃止の取り組みはより良いケアへつながることだと思う。

社会福祉士

接遇マナー研修会

マナーセミナーに参加して、マナーの基本と電話対応など学ぶことが出来ました。自分が今まで当たり前のようにはやっていた事が、実は違っていたり、知らないで間違えて使っていたりしている事などが多々あり、気をつけていこうと思いました。

好感、安心感を与えるポイントなどを学び、確かに自分がもし、利用者様だったら…利用者様のご家族だったら…と想像したりするとどう思われるか？常に意識していなければいけないと思いました。

電話対応では、今はまだ自分が仕事で電話対応を直接する時は、あまりないのですが、これから先休日や夜間など、もしかすると対応する時が来るかもしれないので、言葉遣いを意識しておかないといけないと思いました。

言葉遣いのポイントでは、沢山のクッション言葉を引出しに持つ事の大切さや、電話でのまぎらわしい言葉に気をつける事も学びました。

介護職員



認知症予防を考える

認知症についての講義を受け、改めて認知症のかたとの接し方を勉強しました。

認知症のかたは、自分の気持ちを上手に伝える事ができなかったり、周囲に伝える人がなかなか居ない為不安感や孤独感を抱えて生活しています。認知症のかたが、安心してゆったりとした生活を送るためには、スタッフの接し方や環境が重要です。スタッフは認知症のかたの不安感を和らげ、心を開いてもらうために、穏やかな気分で話しかける、目を見て話しかける、相手のペースに合わせて聴く事を大切にする、間違えた言動でもまず受け入れてみるといった相手を思いやる姿勢が大切です、やはり受容と共感がとても大切であると思いました。環境面では、ゆっくりとした時が流れていて安心できる絆（居場所）がある事が重要です。施設でも、利用者が安心して生活を送るにはスタッフや他利用者との信頼が大切であると感じました。

日頃時間に追われがちで利用者の介助をするにも自分のペースで行ってしまう事がありますが、利用者の気持ちを最優先に考え、ペースに合わせた介護をするようもう一度気持ちを切り変えて介護をしようと思う事ができました。その他、リハビリの体操を実際に行いました。身体全体を使った運動や手首や指を動かす運動等いろいろありました。特に、手首を使った運動は座ったままでも簡単にでき、誰でも参加しやすいので、取り入れていければ良いと思いました。

介護福祉士

火災時における給食施設の実際

副題に～新潟県中越地震など中越沖地震の対応から～とあるように、H16年19年に2回震災に遭った新潟県十日町地域振興局健康福祉部から講師を招いての講習会でした。3日分の災害時用の食料は各施設で備蓄されていますが、食料以外に必要な備蓄品の提示は、実際に経験しなければわからない内容で、とても参考になりました。

特に水は1人1日2ℓを目安に用意されていますが、調理等に必要な量も考慮し、用意するとなると貯水槽も含めないと難しいです。ところが衛生面で問題が生じたとのことのお話でした。又、災害対策本部に早期支援を求めておくと、余裕ができるとの助言もありました。

その他、せっかくの水分補給も「トイレに行きたくなるから」と拒否される高齢者への接し方、そのトイレやゴミの処理等も平常時の備えとして、施設内で検討し体制を整えておく必要があります。調理ボランティアもとても助かったとのことでした。

管理栄養士



平成22年度 表彰

介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰



左：平田会長

右：山川先生

介護老人保健施設 リバブルケア

理事長 山川 知 洋 先生

社団法人 全国老人保健施設協会会長表彰

介護老人保健施設 ケアセンター瀬名

第20回 全老健新潟大会演題発表「優秀奨励賞」

介護老人保健施設 芙蓉の丘

トイレ移乗におけるバランス能力と体幹可能性の関係
—Berg Balance Scale、体幹回旋角度に着目して—

第20回 全老健新潟大会演題発表「奨励賞」

介護老人保健施設 グリーンヒルズ藤枝

不安の強い老健入所者への個別ケアの実施～センター方式シートを利用して～

介護老人保健施設 なぎさ園

防げる事故からなくしていこう～環境整備の重要性を感じて～

第7回 東海・ 北陸ブロック老健大会

- ◆日程 / 平成23年5月26日(木)
10:30～16:30 (受付10:00)
平成23年5月27日(金)
9:00～12:45 (受付 8:30)
- ◆会場 / フェニックスプラザ
(福井県福井市田原)

第22回 全国介護老人 保健施設大会 岩手

- ◆日程 / 平成23年7月27日(水)
～ 7月29日(金)
- ◆会場 / 盛岡市民文化ホール(マリオス)
いわて県民情報交流センター(アイーナ)
- 大会ホームページ
www.toptour.co.jp/conv/3204/roken2011/

会員施設皆様の参加及びご協力をよろしくお願い致します。

東北地方太平洋沖地震により数多くの皆様の尊い人命が失われました。

亡くなられた方々へ心よりお悔やみ申し上げます。

また、大災害に遭われ不安な生活を送られている被害地域の皆様には

心よりお見舞申し上げます。

平成22年度 静岡県老人保健施設協議会 事業報告

平成22年

5月17日	幹事会	静岡市
5月20日～21日	第6回 東海・北陸ブロック老健大会 45演題中静岡県6演題発表（座長1名派遣）	三重県鳥羽市
6月3日	平成22年度 静岡県老人保健施設協議会 定期総会	静岡市
7月21日	第1回 リハビリ部会 研修会	静岡市
8月27日	全国老人保健施設協会 支部事務担当者会議（事務局長出席）	東京都
9月22日	第1回 職員研修発表会 11演題発表	静岡市
10月10日	全国老人保健施設協会 第1回支部長会（支部長出席）	岡山県岡山市
10月10日～12日	第21回全国介護老人保健施設 岡山大会（座長4名派遣）	岡山県岡山市
10月26日	第7回 東海・北陸ブロック老健大会打合せ会（事務局長出席）	福井県福井市
11月2日	幹事会	静岡市
11月15日	第1回 栄養部会 研修会	静岡市
11月22日	第1回 看護・介護部会 研修会	静岡市
12月7日～8日	1泊実務者連絡会	浜松市
12月21日	東海・北陸ブロック代表者会（支部長出席）	名古屋市

平成23年

2月16日	第2回 職員研修発表会 7演題	静岡市
2月18日	第2回 栄養部会 研修会	静岡市
2月17日	全国老人保健施設協会代議員会	東京都
2月19日	第1回 機関誌「老健しずおか」編集会議	静岡市
3月19日	第2回 機関誌「老健しずおか」編集会議	静岡市

その他

■平成22年度 新規加入施設：3施設

介護療養型老人保健施設 あしたかケアセンター
介護老人保健施設 新富士ケアセンター
クロヤナギ介護老人保健施設

■合計加入施設：95施設

県内老人保健施設地区別所在地案内

各施設の窓口が直接利用のご希望をお受けいたします。
まずはお気軽にお電話下さい。

東 部 地 区

リ バ ブ ル ケ ア	〒418-0105	富士宮市原682	TEL (0544) 54-1800
タ カ ネ 園	〒410-0305	沼津市島谷611-1	TEL (055) 967-8800
み く り や 園	〒412-0042	御殿場市萩原354-1	TEL (0550) 83-3567
ヒューマンライフ富士	〒417-0801	富士市大淵3901-1	TEL (0545) 36-0511
富士ケアセンター	〒418-0035	富士宮市星山1129	TEL (0544) 22-3111
安 寧 の 郷	〒410-2315	伊豆の国市田京1258-44	TEL (0558) 76-8100
梅 名 の 里	〒411-0816	三島市梅名578	TEL (055) 977-8686
長泉ケアセンター博寿園	〒411-0945	駿東郡長泉町本宿418-1	TEL (055) 989-1121
お お ひ ら	〒410-0821	沼津市大平1117-1	TEL (055) 934-1165
あ す な ろ	〒412-0045	御殿場市川島田1076-2	TEL (0550) 88-0007
熱海ナーシングホーム翔寿園	〒413-0002	熱海市伊豆山字七尾原1173-172	TEL (0557) 80-3712
き き よ う の 郷	〒416-0946	富士市五貫島175	TEL (0545) 65-2000
ラ・サンテふよう	〒411-0047	三島市佐野1205-3	TEL (055) 989-7000
の ゾ み	〒414-0001	伊東市宇佐美2405-2	TEL (0557) 48-0658
み ゆ き の 苑	〒418-0005	富士宮市宮原337-4	TEL (0544) 28-3900
河 津 お も と 苑	〒413-0502	賀茂郡河津町川津筏場1512-18	TEL (0558) 35-7770
し お さ い	〒410-3514	賀茂郡西伊豆町仁科243-1	TEL (0558) 52-3000
な ぎ さ 園	〒415-0152	賀茂郡南伊豆町湊674	TEL (0558) 62-6800
ひ ろ み	〒417-0801	富士市大淵39-1	TEL (0545) 21-6600
グリーンズ修善寺	〒410-2413	伊豆市小立野100-2	TEL (0558) 74-3300
サ ン 静 浦	〒410-0106	沼津市志下344-1	TEL (055) 934-6000
椎 路 の 里	〒410-0302	沼津市東椎路32-1	TEL (055) 927-3900
夢 の 樹 の 郷	〒411-0902	駿東郡清水町玉川183-1	TEL (055) 971-1000
みしゅくケアセンターわか葉	〒410-1107	裾野市御宿1475	TEL (055) 997-8181
い か る 野	〒418-0105	富士宮市原709	TEL (0544) 54-3200
み は ら し	〒414-0055	伊東市岡187	TEL (0557) 37-3804
ふれあいの下田	〒415-0013	下田市柿崎32-10	TEL (0558) 27-0700
い と う の 杜	〒414-0002	伊東市湯川288-9	TEL (0557) 35-4165
サンビューみしま	〒411-0801	三島市谷田字藤久保2276	TEL (055) 983-6050
か ぐ や 富 士	〒417-0826	富士市中里2546-7	TEL (0545) 32-2150
あしたかケアセンター	〒410-0875	沼津市今沢字西畑372-5	TEL (055) 967-3711
新富士ケアセンター	〒417-0801	富士市大淵字大峯3898-1	TEL (0545) 36-2212

中 部 地 区

ケアセンター瀬名	〒420-0903	静岡市葵区長尾39-5	TEL (054) 264-2221
あ か つ き の 園	〒424-0917	静岡市清水区駒越2883-1	TEL (054) 334-5533
ケア・センターひまわり	〒424-0934	静岡市清水区村松原1-2-34	TEL (054) 336-3033
焼 津 ケ ア セ ン タ ー	〒425-0062	焼津市中根新田1315	TEL (054) 623-8111
コミュニティーケア高草	〒425-0005	焼津市方ノ上358-1	TEL (054) 627-5588
サ ン ラ イ ズ 大 浜	〒422-8045	静岡市駿河区西島528	TEL (054) 282-2839
楽 寿	〒421-2115	静岡市葵区与左衛門新田98-11	TEL (054) 296-1112
こ み に	〒420-0963	静岡市葵区赤松8-16	TEL (054) 209-7000
ケアセンターゆうゆう	〒425-0052	焼津市田尻4	TEL (054) 625-0321
カリタス・メンテ	〒426-8662	藤枝市水上123-1	TEL (054) 643-1266
グリーンヒルズ藤枝	〒426-0133	藤枝市宮原420-1	TEL (054) 639-1234
エ コ ト ー プ	〒428-0007	島田市島534-1	TEL (0547) 45-0111
ア ポ ロ ン	〒427-0047	島田市中溝町1714-1	TEL (0547) 34-2000

中部地区

アリス草薙	〒424-0886	静岡市清水区草薙424-7	TEL (054) 347-6511
萩の里	〒422-8018	静岡市駿河区西大谷12-5	TEL (054) 236-1155
はるかぜ	〒421-0514	牧之原市菅ヶ谷1240-1	TEL (0548) 52-7771
きよみの里	〒424-0203	静岡市清水区興津東町1829	TEL (054) 369-7700
葵の里	〒421-0135	静岡市駿河区小坂376-1	TEL (054) 257-2281
芙蓉の丘	〒421-3306	富士市中之郷2500-1	TEL (0545) 56-2311
あみ	〒421-2109	静岡市葵区福田ヶ谷73-2	TEL (054) 206-1777
コミュニティーケア吉田	〒421-0302	榛原郡吉田町川尻1700-1	TEL (0548) 34-5577
さくら	〒427-0011	島田市東町1331	TEL (0547) 33-0800
マインド	〒426-0075	藤枝市瀬戸新屋487-2	TEL (054) 643-3601
フォレスト 藤枝	〒426-0033	藤枝市小石川町2-8-13	TEL (054) 647-3833
かりん	〒421-0105	静岡市駿河区宇津ノ谷1-1	TEL (054) 268-6666
ケアセンター池田の街	〒422-8005	静岡市駿河区池田185-1	TEL (054) 267-2211
鶴舞乃城	〒424-0114	静岡市清水区庵原町3158	TEL (054) 361-1234
ユニケア岡部	〒421-1131	藤枝市岡部町内谷1473-3	TEL (054) 667-5555
エスコートタウン静岡	〒420-0821	静岡市葵区柚木90-1	TEL (054) 267-1010

西部地区

西山ウエルケア	〒432-8001	浜松市西区西山町411-2	TEL (053) 485-5500
三方原ベテルホーム	〒431-1304	浜松市北区細江町中川7421-1	TEL (053) 436-6600
みっかび東介護老人保健施設	〒431-1404	浜松市北区三ヶ日町宇志34-1	TEL (053) 524-2000
都ケアセンター	〒431-2102	浜松市北区都田町7555-52	TEL (053) 428-3133
なかよし	〒438-0838	磐田市小立野135-1	TEL (0538) 34-6543
エーデルワイス	〒434-0041	浜松市浜北区平口2405	TEL (053) 585-1500
ハイマート有玉	〒431-3122	浜松市東区有玉南町1436	TEL (053) 434-7877
白梅ケアホーム	〒431-1112	浜松市西区大人見町3011-1	TEL (053) 485-7711
入野ケアセンター	〒432-8061	浜松市西区入野町6417	TEL (053) 440-1200
於保老健センター	〒437-1216	磐田市一色26	TEL (0538) 58-2550
エバーグリーン掛川	〒436-0043	掛川市大池680	TEL (0537) 21-0550
すずかけの街	〒430-0918	浜松市中区八幡町181	TEL (053) 476-1156
さいわい	〒431-3423	浜松市天竜区渡ヶ島221	TEL (053) 583-1156
おおふじ五幸ホーム	〒438-0002	磐田市大久保508-3	TEL (0538) 38-5511
さくらの苑	〒438-0074	磐田市二之宮字仙水1162	TEL (0538) 33-3800
神子の園	〒436-0084	掛川市逆川100	TEL (0537) 20-0080
袋井ケアセンター	〒437-0003	袋井市萱間933-1	TEL (0538) 49-4911
まんさくの里	〒431-0422	湖西市岡崎1353-1	TEL (053) 572-3911
はまおか	〒437-1688	御前崎市池新田2070	TEL (0537) 86-8822
花平ケアセンター	〒431-2211	浜松市北区引佐町花平708	TEL (053) 542-4187
白脇ケアセンター	〒430-0846	浜松市南区白羽町1424	TEL (053) 444-3131
みかたはら介護老人保健施設	〒433-8105	浜松市北区三方原町675-6	TEL (053) 438-5886
ケアセンター芳川	〒430-0838	浜松市南区祟野町24	TEL (053) 426-0003
天王介護老人保健施設	〒435-0051	浜松市東区市野町2495	TEL (053) 423-1070
あおばケアガーデン	〒437-1302	掛川市大淵4345	TEL (0537) 48-0002
風の杜	〒437-0214	周智郡森町草ヶ谷104-1	TEL (0538) 85-1121
さわだの庄	〒439-0037	菊川市西方5511	TEL (0537) 35-8889
白梅豊岡ケアホーム	〒438-0126	磐田市下神増183-1	TEL (0539) 62-1601
ナーシングホームオンフルール	〒437-0023	袋井市高尾1439-3	TEL (0538) 45-0080
五洋の里	〒438-0234	磐田市掛塚3190-1	TEL (0538) 67-1755
長鶴の郷	〒435-0031	浜松市東区長鶴町290	TEL (053) 423-2700
あらたま	〒434-0004	浜松市浜北区宮口3152	TEL (053) 582-3211
えいせい掛川介護老人保健施設	〒436-0342	掛川市上西郷8021	TEL (0537) 20-1611
クロヤナギ介護老人保健施設	〒431-1404	浜松市北区三ヶ日町宇志34-1	TEL (053) 524-1000

介護老人保健施設の理念と役割

理

念

介護老人保健施設は、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

5つの役割と機能

1 包括的 ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

2 リハビリ テーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。

3 在宅復帰施設

脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

4 在宅 生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、介護予防に努め、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他サービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。

5 地域に 根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

静岡県老人保健施設協議会

〒431-1112 静岡県浜松市西区大人見町3011番地の1

介護老人保健施設 白梅ケアホーム 内

TEL<053>485-7711 FAX<053>485-7712

<http://www.rouken-shizuoka.jp/>